

令和元年度 前学期 学長と学生の懇談会 実施報告

このことについて、以下のとおり実施いたしましたので報告します。

1. 目的

全学部の2年次生から4年次生を対象として参加者を募り、「ディプロマポリシー」や「iOP」などの本学の新たな取り組みや日ごろの学生生活について、学長をはじめ大学執行部教職員と学生が直接対話することにより学生の声を大学運営に反映させる機会とするとともに、学生と教職員が大学を共に作り上げていくパートナーであるという意識を互いに高めることを目的とする。

2. 参加者

①学生：各学部2年次生～4年次生 48名（詳細は下表のとおり）

	男性	女性	計
人文社会科学部	5名	5名	10名
教育学部	5名	8名	13名
理学部	8名	3名	11名
工学部	7名	0名	7名
農学部	2名	5名	7名
計	27名	21名	48名

②教職員：三村信男学長、太田寛行理事・副学長（教育統括）、栗原和美全学教育機構長、篠嶋妥副機構長、西川陽子副機構長、向後光典学務部長
 （陪席） 中庭陽子監事、藤咲仁一学務課長、武田和志学生支援課長、三浦範昭学務課長補佐、塚田和男学生支援課長補佐、小泉崇人学生支援課長補佐、塚田秀之厚生企画グループ係長、皆川洋子厚生企画グループ主任

3. 実施日時・場所

①実施日：令和元年7月10日（水）

- ・開会挨拶・趣旨説明 14：30～14：40
- ・懇談会 14：40～16：40
（途中10分休憩）
- ・閉会挨拶 16：40～16：45
- ・アンケート記入 16：45～17：00（随時解散）

②場所：社会連携センター3階 研修室

4. 主な話題

・ディプロマポリシーやiOP等の本学の新たな取り組み、基盤教育、専門教育、日ごろの学生生活等について、話題に取り上げた。

5. 実施方法

懇談会中は、クリッカーを用いて学生にアンケートを行い、その結果を基に、学長が各参加者へ理由や詳細について尋ね、学生と対話するかたちで進めた。(別紙 1「令和元年度前学期 学長と学生の懇談会における質問事項の結果及び学生からの意見」参照)

6. アンケートの実施

参加学生の感想等を聴取し次回以降の学生懇談会の参考とするため、学生参加者に対し、懇談会終了後に「アンケート」を実施した。(別紙 2「令和元年度前学期 学長と学生の懇談会実施後に行ったアンケートの集計結果」参照)

7. 今後の予定

①学内への報告

実施した内容については全学教育機構学生支援部門会議等の学内諸会議で報告するほか、学内掲示板等を活用し、広く学内に広報する。

②学生からの意見・要望等への対応

全学教育機構において、学長と学生の懇談会にて聴取した学生からの意見や「アンケート」の内容を踏まえて改善を検討する。

また、学生からの意見・要望等のうち、全学教育機構以外が所掌する事項については、関係各所への情報提供、および改善の可否等の照会を行う。検討の結果、改善されたものなどについては、学内に掲示し、学生へのフィードバックを行う。

8. 学長と学生の懇談会の様子



写真：懇談会の様子（1）



写真：懇談会の様子（2）



写真：懇談会の様子（3）



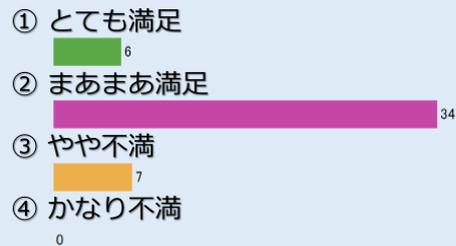
写真：懇談会の様子（4）

令和元年度前学期 学長と学生の懇談会 における質問事項の 結果および学生から の意見

所属学部を教えてください。



茨大での大学生生活全般における満足度はどのくらいですか？



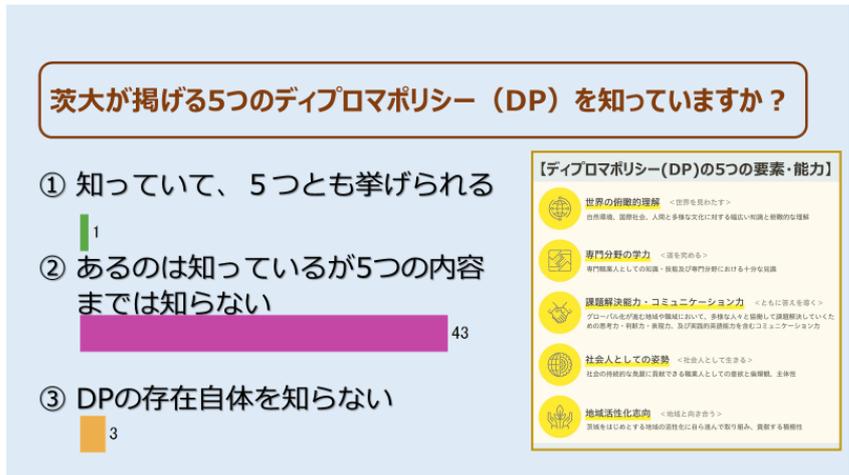
【学生の意見】

「とても満足」

・学生→ キャリアセンターでの就職指導や面接の練習をしてもらえてとても良かった。

「やや不満」

・人文社会科学部生→ 茨城大学の人々は閉鎖的で視野が狭い。社会との接点が少ないが、その対策がうたれていない。

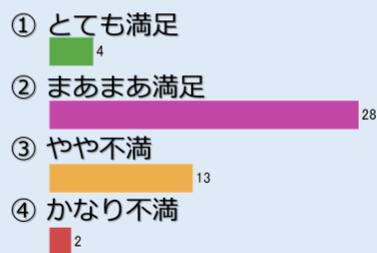


【学生の意見】

「世界の俯瞰的理解」について

- ・工学部生→ 授業でそこまで世界について勉強した印象がない。
- ・理学部生→ 英語の授業くらいしか思いつかない。TOEICなどの試験のための勉強という型にはまった教え方の印象がある。

基盤教育（教養教育）の満足度はどの程度ですか？



【学生の意見】

「満足」

・理学部生→ 世界に興味がすごくあったので、社会教育とか世界教育とかを受けられて満足。履修登録の期間が2週間くらいで短く、3週間くらいあればもっとよかった。

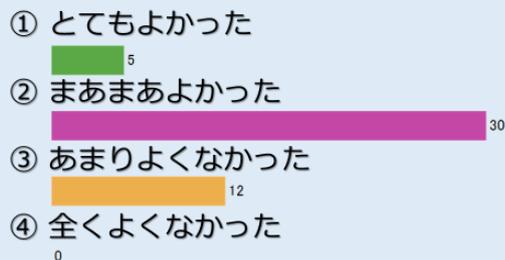
・工学部生→ 法律の授業があり、憲法などは、工学部とは関係ないがとても重要と思った。

「不満」

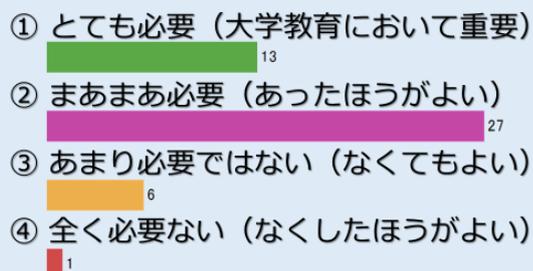
・理学部生→ 未修外国語の種類が減ってきている。スペイン語Ⅲがなくなってしまった。

・理学部生→ 「アクティブラーニング」が基盤教育ではできてるのが少ない。グループディスカッションとか、積極的な授業だと「身についた」実感が高い。

基盤教育（教養教育）は、自分の成長を促す（DPを伸ばす）観点から、内容やカリキュラムなどよいものでしたか？



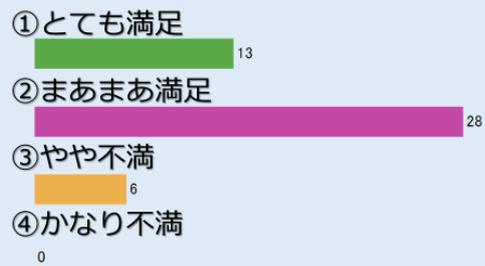
基盤教育（教養教育）の必要性について、どのように思いますか？



【学生の意見】

- ・工学部生→ 専門的なことだけだと、意見が独りよがりになってしまう。より広い視点をもって、たくさんの意見を吸収するためには必要。
- ・理学部生→ 選択肢が同じようなものばかりとか、専門とかぶったりとかする。基盤が専門の自由を奪っている面もあった。
- ・工学部生→ 工学部は2年から日立で、水戸に行かないと取れない授業がある。全部取れるようにしてほしい。
- ・理学部生→ 基盤教育の授業は、履修できるかどうか抽選で決まる授業がある。
- ・工学部生→ 1年の時は基盤ばかりで専門が少なく、2年では専門ばかりで授業スピードが速い。そうすると、基盤の比重は下げざるを得ない。

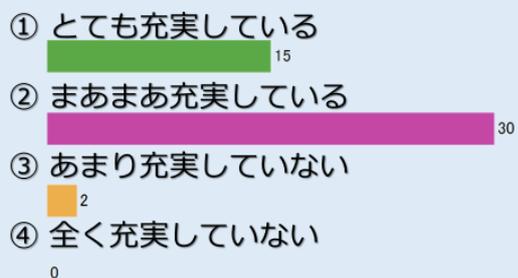
専門の教育や研究における満足度はどの程度ですか？



【学生の意見】

- ・教育学部生→ とても満足しているが、古文を専門とした教員がいないので残念だった。
- ・理学部生→ 理学部では各コースで相談室を設置しているが、相談室がへらされてしまった。同じ授業を受けた先輩方にもっと話を聞きたい。

専門教育は、専門性を伸ばす観点から、内容・カリキュラムなど充実していると思いますか？



【学生の意見】

- ・理学部生→ 成績評価が試験一つだけというのがあって、特に必修は中間試験をもうけて欲しい。
- ・教育学部生→ シラバスができるのがギリギリで、取る授業を考えるためにもっと早くして欲しいです。
- ・工学部生→ キャップ制で2年の時に開催される授業を数えるとオーバーしてしまうので全部とれない。3年の時にどうなるか。46単位以内に納めるか、46単位以上とれるようなシステムにして欲しい。

iOPについての理解度はどの程度ですか？

- ① よく理解しており、既にいろいろ企画を考えている
6
- ② 大体理解しているが、活用の仕方など未だ考えていない
19
- ③ 何をするための期間なのか全く理解していない
16
- ④ その他
3

iOP期間を利用してやってみたいものは何ですか？

- ① インターンシップ
15
- ② 地域活動（町おこし、ボランティア、など）
6
- ③ 海外研修・留学
8
- ④ あまり関心がなく、やりたいと思わない
5
- ⑤ その他
10

【学生の意見】

- ・教育学部生→ 教育実習が9月と10月にあり、インターンシップに行けない人もいる。就労体験もしておきたいので教育実習の時期を変えて欲しい。
- ・教育学部生→ 社会選修ではiOP期間中に必修の授業が入っていてiOPに行けません。人文社会科学部では教育学部のイベントが公欠扱いにならないので、教育学部生の教育インターンシップや介護等体験が欠席扱いとなってしまう。

大学生活で「不便に思っていること」もしくは「改善すればもっと良くなると思うこと」はありますか？

①ある



②ない



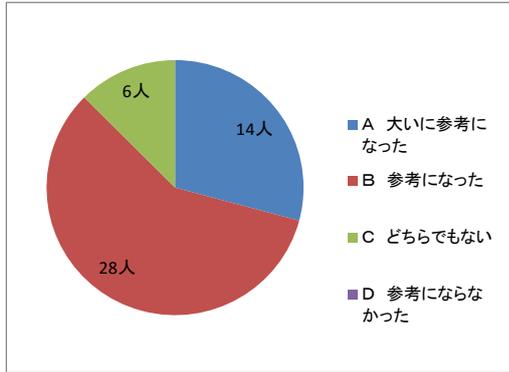
【学生の意見】

- ・人文社会科学部生→ 生協の駐輪場が閉鎖されていて飽和状態になっている。
- ・理学部生→ 研究指導等で教授からの言葉がきつと感じることがあります。
- ・理学部生→ 留学制度を充実して欲しい。AIMSのように留年なしで単位が取れる制度で、英語を第一言語としたアメリカ、カナダなどでも出来るようにして欲しい。
- ・学生→ 留学生を受け入れているが、生協で食材についての表示を日本語以外ではどうか。
- ・理学部生→ 去年学部でモニター会があったが、要望のうち実現したのは1～2個。結果について掲示してもよいのではないか。
- ・学生→ BYODで大学に設置されている学生が自由に使用できるパソコンが撤去されることに反対である。大学ではパソコンの支給やパソコンをしまえるロッカーを設置するそうだがそれで十分なのか。金銭的に不利な学生にはどう対応をされるのか。

令和元年度前学期 学長と学生の懇談会 実施後に行ったアンケートの集計結果

アンケート提出者：48名 / 懇談会参加者：44名 （回収率：91.6%）

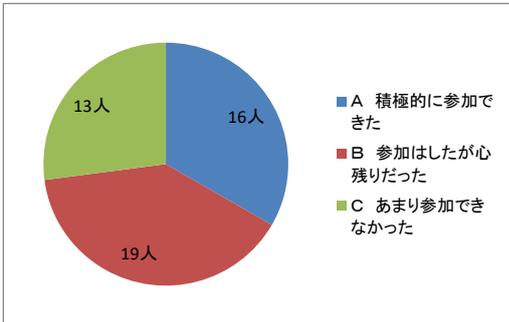
1. 懇談会の内容は参考になりましたか？



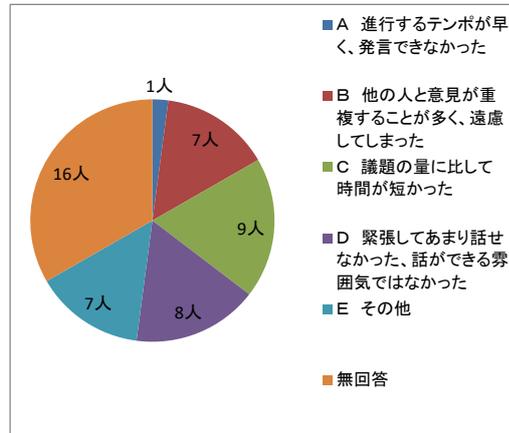
参考になった主な内容

- ・英語教育についてクラス分けに問題があると感じた。また、得意不得意も考慮すべきだと思った。
- ・学校の制度がどのような考えでなっているかを知れた。気がつかないような意見を多く聞けた。
- ・CAP制の説明がとても納得できた。
- ・学長にその場で回答いただいて良かった。
- ・時間割の理由。(2人)
- ・学修の考え方。
- ・基盤教科の必要性がわかった。
- ・色々自分の気になっていた点について質問することが出来た。(3人)
- ・自分の思っていること(不満等)を他の人も思ってるんだなという共有・共感ができた。(3人)
- ・他の学部、学科の学生の様々な意見を聞くことができた。(8人)
- ・学長や色々な部門の方が改善のために動いていることやどのように取り組んでいるのか知れた。(3人)

2. 懇談会では、積極的に意見を言えましたか？



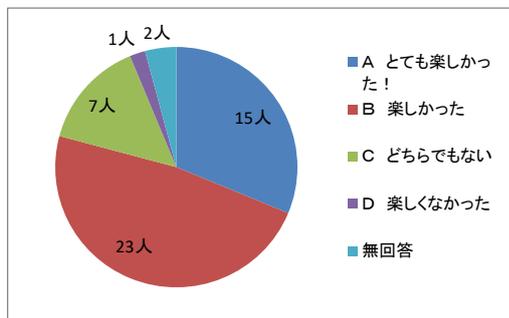
3. 参加はしたが心残りだった、もしくはあまり参加できなかった理由を教えてください。



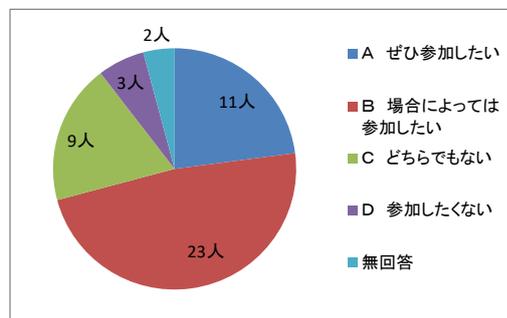
「E」の具体的内容

- ・iOPや実習、クォーター制による変化等、2年次では経験していない内容について考えることができなかった。
- ・阿見キャンパスにいるため、水戸の問題は知らないし、少人数の阿見のことを言うべきだとは思わなかった。
- ・昨年や一昨年に新規導入された制度の話が多く、4年次の私はその影響を全く受けていなかったので答えられなかった。
- ・発言する人が固定化されていて、あまり発言できる気がなかった。
- ・野球場、トレーニングルーム、ラーニングコモンズ、iOPクォーター、教育目標など議題についての知識が自分には無かった。
- ・どこで発言すれば良いのかわからなかった。次の議題が良かった方が良い。
- ・自分に関連のあること、関心のあることがなかった。(5人)

4. ズバリ！学長とお話するのは楽しかったですか？

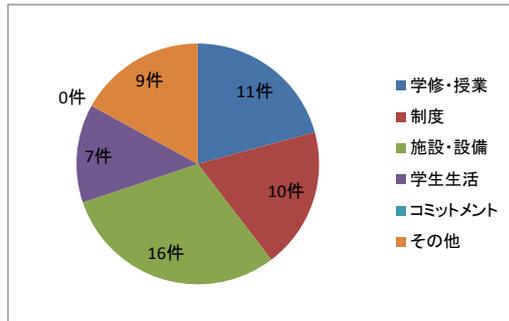


6. 今後、同様の懇談会が開催されたら、参加したいと思いますか？



5、7、8は自由記述の設問だが、記載内容により項目立てをして集計を行い、各項目の意見の要旨を記載する。

5. 今回の懇談会では伝えきれなかった大学へのご意見・ご要望をお聞かせください。



「学修・授業」に関すること

- ・ 年始のガイダンスや補講など重要な連絡をポータルなどネットで知らせて欲しいです。
- ・ 3分の2以上出席で単位が出るはずなのに、16回授業で2、3回しか欠席が許されていないものがある。演習系は「4分の3以上」など決まっているのなら冊子（履修要項）に明記して欲しい。そうでないならきちんと「3分の2」ということを徹底して欲しい。
- ・ 必修講義の中で受けなければならない法学検定を自費で払わなければいけないのは良くないと思う
- ・ 機械工学科では研究室配属が4年の4月ですが、配属を早くして欲しい。希望としては3年に配属されることですが、2月下旬くらいに配属されれば3月に研究に関する勉強ができる。
- ・ 生物科学コースの実験の集中講義でガイダンスの日に実験をやるのがいけないとおもった。教科書もそのときに購入しないといけないので、負担になっている。また、実験の時には班分けをされるので、ガイダンスだと思って先にいっても履修を取り消しにくいのが不満。
- ・ 補講日以外の日に補講を入れるのは大丈夫なのか気になった。
- ・ 講義を取る上で、必修科目とかぶってしまうのは避けて欲しい。
- ・ 基盤科目を日立にオンラインで流して授業を日立で取れるようにして欲しい。
- ・ 1年次から日立キャンパスで授業をして欲しい。1年時にあまり専門科目がなく、2年次以降に集中するのが負担。
- ・ 今のままなら英語の基盤は3年間（2年半）も必要ない
- ・ 理学部に所属しているのですが、一つの科目に対して演習科目がついていることが多いです。演習科目はとても身になり、大切だとわかるのですが、2単位となっているため、教職など他の授業と合わせるとCAP制に引っかかりやすいです。また、演習科目と授業科目を一つで考えて、講義をしてくださる先生もいて、落とすと4単位と厳しさもある。

「制度」に関すること

- ・ キャンパス内の歩車分離（自転車含む）について、日立キャンパスへの導入も考えていただきたい。
- ・ クォーター制について…1年生のときに受けた内容研究が明らかに内容薄くなっていた。
- ・ 農学部の3年次編入生は必修のため水戸で受ける授業があるが、交通費の負担（3000円近く）が大きく、環境が不公平に感じる。
- ・ 法律経済学科法律メジャーでiOPの期間（3クォーター）に必修があること→秋冬のインターンで長期に参加しづらい。
- ・ 1年次の時からiOPの説明を受けてきて、3年3クォーターには（夏休み含め）4ヶ月ほど授業のない期間になると考えたが、実際には後期（3、4クォーター）に開講の専門科目が普通にあるので、第3クォーターも自動的に授業が入ってしまう。各学部でiPOをきちんと知らせて、専門科目も第4クォーターに週2回授業で2単位取得できるなど、キャンパス外での活動に専念できる体制を整えて欲しいかった。
- ・ 休講情報や健康診断の日程などをメールするなりポータルサイトに記載するなりしてもらえるとありがたい。
- ・ iOP期間中に必修授業があり、海外留学に行くことができませんでした。今後も同様の制度の変わり目のときにはこのようなことが繰り返されないようにしてください。
- ・ TAの時給の件。農学部資源生物科学科の殆どの研究室では、平日毎日9時～17時のコアタイムがあり、そこに学生実験のTAが入ることは構わないが、時間外でのTA活動について検討して欲しい。
- ・ CAP制に関してはやはり46単位というのが考えられて、設けられたものならなんとしてもその学年で取る単位数を46の中に収めるべきだと思います。

「設備」に関すること

- ・日立キャンパスのトイレの照明について、節電という理由があると思うのですが、照明の数が少なく、日が落ちると個室が暗くて何も見えないような場合があります。必要最低限は充実させて欲しいです。
- ・人文のラウンジが夏は暑く、冬は寒い。他学部のように電気があり空調があるところにして欲しい。
- ・人文の講義棟の空気が悪い。匂いが気になる。
- ・芝生の部分をよりオープンスペースとして活用できるようにして欲しい
- ・夜間や土日でもエレベーターを利用したい（楽器運搬などがあるため）。教育C棟入り口と同じように学生証をかざすと動くなどできないか？
- ・パソコンを利用したいのに、教育学部のWi-Fiが安定していない。つながるが動かない。とくにC棟。
- ・サークル棟の階段が危ない。
- ・3分の2以上出席で単位が出るはずなのに、16回の授業で2、3回しか欠席が許されていないものがある。演習系は「4分の3以上」など決まっているのなら冊子（履修要項）に明記して欲しい。そうでないならきちんと「3分の2」ということを徹底して欲しい。
- ・小体育館の雨漏りを直して欲しいです。また、夏場、中の気温がかなり高くなり危ないので改善策があればお願いします。
- ・ゼミで人文A棟を利用するが、18時で扉にロックが掛かるのは少し早いと感じる。学生だけでなく、職員の方も登録済みの身分証を忘れると建物内に入れなくなり、不便と言っていた。あと、1、2時間程度ロックを遅らせてもらえるとうれしい。
- ・正門には時間制限がないが、北門にはあるのはなぜ？女学生のために開けておくべき。
- ・図書館の一階のぐるぐる回して動かせる本棚の側面にジャンルのラベルが貼っておらず、ざっくり関連資料を探すときに使いづらい。
- ・農学部の駐車場はなぜ有料化してしまうのでしょうか。利用している友人から高すぎるという話を伺いました。
- ・農学部にエレベーターを増やして欲しい。
- ・学生実験の設備が古い。壊れているなどで使えなかったりして不便。教員の方からも「資金がなくて困る」といった意見を耳にするので実験が満足にできるような環境があるとありがたい。
- ・BYODをやるなら学内Wi-Fiを強くしてください。

「学生生活」に関すること

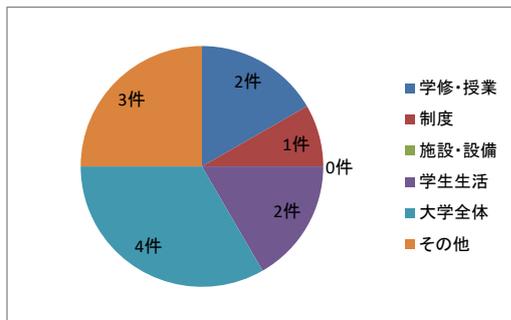
- ・落とし物の管理…一箇所にまとめられないかどうか（探すのが手間、どこにあるのかわからない）、どこに何が集められているか（こっちの場合は告知して欲しい）。
- ・農学部の生協食堂の営業時間を長くして欲しい。（現在は11:30~13:30となっていて短いため）
- ・外部団体への窓口を広くしていただきたいです。私は「NPO法人ドットジェイビー」という、選挙時の投票率の向上を掲げる団体の代表です。先日、茨城大学に設置される期日前投票所での選挙啓発活動を行おうと、学生支援センターに相談に行ったのですが、「外部団体なので」の一点張りで許可をいただけませんでした。顧問をつけるという話もありますが、外部主導の団体ですのでそれも難しいです。どうか私達の活動を認めてください。
- ・かなり難しいとは思いますが、奨学金について、特に、授業料の減額制度について両親の年収（orそれに対応するもの）によって判断されるが、学費も払ってもらってない、仕送りのない学生にはなんの助けにもならない。どうか配慮願う。
- ・部活動に所属しているが、できれば各部の更衣室が欲しいと思います。
- ・授業料免除の申請日程を早めに知らせてもらいたいです。留学生なので休みの期間のスケジュールが決まらないと、帰国の費用が高くなりますし、家族らとられる時間も減りますから、是非お願いします。

「コミットメント」に関すること

その他の要望

- ・西門近くの茨大塾さんについてです。たくさん文字が書かれた看板がたくさんあるところですが、この間その看板を読んでいたら、韓国籍と思われる男性の方が出てきて大きな声で怒られました。内容は理解できませんでしたが、とても怖かったです。
- ・茨大の裏の道が暗いので街灯を設置して欲しい。
- ・図書館に専門的な新しい技術書を入れて欲しい。生協の本屋にあるような新刊など、自費で購入するのは難しい。
- ・工学部キャンパスに常陽銀行ATMを再び置いて欲しい。
- ・個々の学部内の取り組みは個々での議論対象ではないかもしれないが、どこに言うべきか？
- ・PC上で論文が読める電子ジャーナルがあるのですが、読める論文が少なすぎる。もう少し購読して欲しい。
- ・教育学部理科の有機化学の教授が欲しい。有機・無機研究室がない。
- ・教授などの先生方の研究以外の仕事が多く、とても忙しそうなので改善する余地があると思います。（会議や事務手続き等）
- ・留学生と日本人の距離が少し遠い。イベントなどが留学生メインで行われるものなので、連絡・告知が日本人にこないものがある。

7. 今後、このような学生懇談会を行う際に、議題にして欲しいテーマはありますか？



「学修・授業」に関すること

- ・大学院に関して特に理工学研究科長である田内先生とお話したいです。物性理論・素粒子理論度が量子線科学専攻に含まれていて、自身の研究とはかけ離れた放射線や加速器についての講義を取らなければならないのが良くないと思います。
- ・茨城学の必要性・有用性について（役に立った点など）

「制度」に関すること

- ・iOPについて

「施設・設備」に関すること

「学生生活」に関すること

- ・勉強以外の人間関係やサークルに関して
- ・学生生活やサークル活動をより快適にできるように意見や考えを取り上げて欲しい

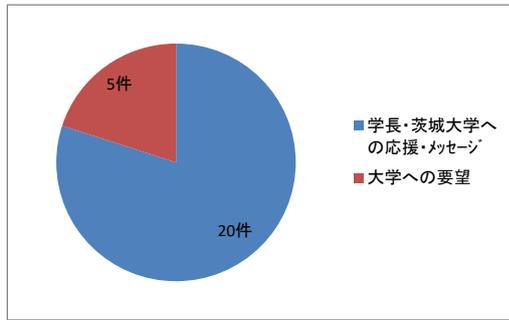
「大学全体」に関すること

- ・学生がどんなチャレンジがしたいのか。その支援について
- ・学生アンケートは任意で行うものだから。送信したときに学生番号が伝わったり、催促のメールが来るのはおかしい。
- ・キャンパス移動があることが原因となっている諸問題の改善について
- ・日本の学生たちと留学生のつなぎ

その他

- ・本日のような形で良いと思います。
- ・大学外との関わり
- ・外部団体に関すること

8. 学長へのメッセージをお願いします！



学長・茨城大学への応援・メッセージ（原文ママ）

- ・理想論ばかりでなく、きちんと現実を見ていること、この懇親会のようにフィードバック体制もあることは素晴らしいことだと思います。
- ・おつかれさまです！親身な対応良かったです
- ・丁寧な回答をくださってありがとうございます。生徒一人ひとりが自分の個性に合わせて、長所を伸ばせる茨大を期待しています。
- ・足が長い、と思いました！色々忙しいと存じますが、できる範囲で改善などお願いします。
- ・今後も茨城大学をよろしくおねがいします。我々学生もより良くなるように努力いたします。
- ・他学部に対する知識が豊富ですごかったです。今まで抱えていた不満や不安が少し緩和されました。ありがとうございました。
- ・学生の要望に真摯にお答えくださり、学生生活改善への誠意を感じた。
- ・思いのほか学長が気さくだった。
- ・できることからでいいので、茨大をより良くするための改善をしていって欲しい。
- ・忙しいと思うが、細やかな対応をよろしくおねがいします。
- ・過ごしやすい大学を整備していただきありがとうございます。
- ・学生の意見を取り入れるいいイベントありがとうございました。
- ・大学のあらゆるところに目を向けられている印象を受けました。いつもありがとうございます。
- ・大学に対して特に不満はありません。

大学への要望

- ・今回上がった問題が少しでも改善されることを期待しています。
- ・予算的都合や、他組織との兼ね合いなど、様々な事業がある中で学生の要望を実現しようとするのは大変だと思いますが、実現可能な範囲で取り組んでくださると嬉しいです。
- ・「この大学に入れてよかった」と思ったことも「この大学で悪かった」と思うこともないです。これで良いのでしょうか。
- ・T型人才をより多くするためにも授業内容などを改善して欲しい
- ・教育学部の新カリは三年次前期にシワ寄せが来るので二年次前期や一年次後期に授業を回したほうが良いかと存じます
- ・授業や研究や人材育成をより良いものにする為にいろいろな取組が行われていることが知れました。今後もこのような場を設けて欲しいです。ありがとうございました。
- ・外部団体に対するご理解とご協力をいただきたく存じます。もし、私共の活動に興味をお持ちになられたら7月20日までに171039L@vc.ibaraki.ac.jpあてにご連絡をいただきたいです・私どもの活動に関しましては、7月7日付発行の東京新聞をご覧ください。
- ・情報共有の不十分さはあるのだなと感じました。生協の工事が遅れている話とか共有（メールなどで）されていませんか？この場がなければ私は知らなかったことなので、こういう情報共有の場がもっとあればいいと思いました。

9. その他、懇談会に関する感想・ご意見等ございましたら、自由にお書きください。

- ・とても充実した時間でした。茨大ならではのミニマム運営の大変さが伝わってきました。気長に問題が解決していったら少しずつ茨大がよりよい環境になっていくのを見守りたいと思いました。
- ・こういった懇談会は学生からの意見を教員へあげる重要なイベントだと思う。各学部で行っているモニター会も含め、今後も実施して欲しい。
- ・社会選修のiOPクォーターに関する必修授業の件は、今から対応されても教育インターンシップの締切には間に合いませんので、来年度から検討していただきたいです。
- ・工学部の学生は通学以外で車を使う場合、月に5日まで臨時入構できるシステムが有るのですが、これについて当日の入構は不可能だったりするので、なにか対応できるとありがたいです。また、サークル活動について、音楽系のサークルの場合、現在は楽器運びを平日に行わなければならない、不便です。サークル棟の土曜・日曜の開放について、学生と担当者職員などとの意見交換会などを行って欲しいなと思います。
- ・話しやすい雰囲気よかった。また、機器によるその場でのアンケートの集計も良かった。
- ・参加する人を集めるときにこの会の目的や意義をまとめたリーフレットのようなものが欲しかった。
- ・教授とのお付き合いではなく、本当に参加したい人が参加すれば良いと思いました。
- ・学生の意識で改善できるものがたくさんあって、学生の主体性の少なさを感じました。

令和元年度 後学期 学長と学生の懇談会 実施報告

このことについて、以下のとおり実施いたしましたので報告します。

1. 目的

令和元年度に本学に入学した新生を募り懇談会を開催し、学長をはじめ大学執行部教職員と学生が直接対話することにより、本学の新たな取り組みや日ごろの学生生活に関する学生の声を汲み上げ、大学運営に直接反映される機会を持つとともに、学生と教職員が大学を共に作り上げていくパートナーであるという意識を互いに高めることを目的とする。

2. 参加者

①学 生：各学部1年次生 55名（詳細は下表のとおり）

学部	男	女	計
人文社会科学部	10名	2名	12名
教育学部	5名	7名	12名
理学部	6名	5名	11名
工学部	6名	4名	10名
農学部	6名	4名	10名
計	33名	22名	55名

②教職員：太田寛行理事・副学長（教育統括）、栗原和美全学教育機構長、
西川陽子副機構長、向後光典学務部長

（陪席） 鳥羽田英夫理事、中庭陽子監事、安田裕国際交流課長、三浦範昭学生課長補佐、
塚田和男学生支援課長補佐、塚田秀之厚生企画G係長、皆川洋子厚生企画G主任

3. 実施日時・場所

①実施日：令和2年1月24日（金）

- ・開会挨拶・趣旨説明 16：00 ～ 16：05
- ・クリッカー説明 16：05 ～ 16：10
- ・懇談会（クリッカー使用）16：10 ～ 17：15
- ・総括・閉会挨拶 17：15 ～ 17：20
- ・実施後アンケートの記入 17：20 ～ 17：30

②場所：共通教育棟2号館4階 41番教室

4. 主な話題

- ・本学の新たな取り組みや日ごろの学生生活について令和元年度に入学した1年生たちがどのように思っているか、また、教職員側から見て1年生の動向のうち気になるところについて話題として取り上げた。

5. 懇談会実施方法

学長所用のため、太田理事・副学長が代理を努め懇談会を開催した。

懇談会では、クリッカーを用いて学生にアンケートを行い、その結果を基に、太田理事・副学長が各参加者へ理由や詳細について尋ね、学生と対話するかたちで進めた。

6. 懇談会後のアンケート調査

参加学生の感想等を聴取し次回以降の学生懇談会の参考とするため、学生参加者に対し、懇談会終了後に「アンケート」を実施した。

7. 今後の予定

①学内への報告

実施した内容については全学教育機構学生支援部門会議等の学内諸会議で報告する。

②学生からの意見・要望等への対応

全学教育機構において、学長と学生の懇談会にて聴取した学生からの意見や「アンケート」の内容を踏まえて改善を検討する。

また、学生からの意見・要望等のうち、全学教育機構以外が所掌する事項については、関係各所への情報提供、および改善の可否等の照会を行う。検討の結果、改善されたものなどについては、学内掲示により学生及び教職員への周知を図り、共に大学を作り上げていくパートナーシップの意識をより高める機会とする。

8. 学長と学生の懇談会の様子



写真：懇談会の様子（1）



写真：懇談会の様子（2）



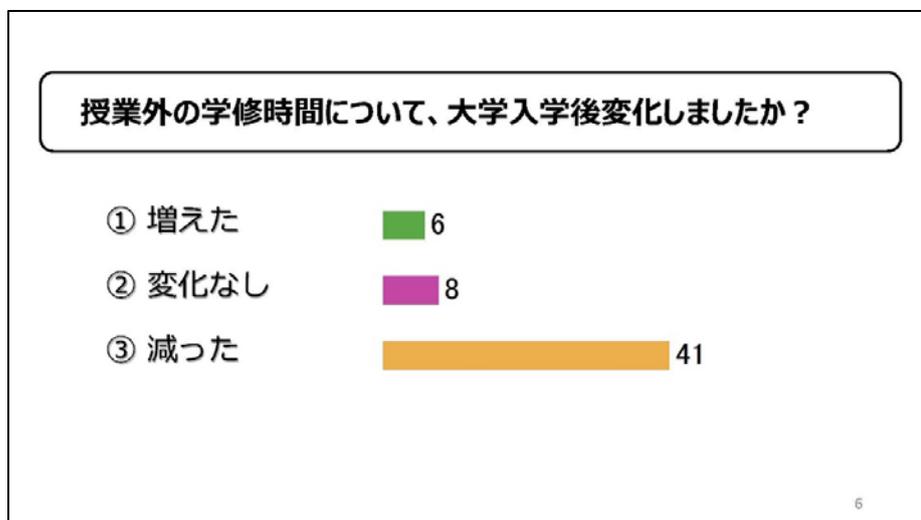
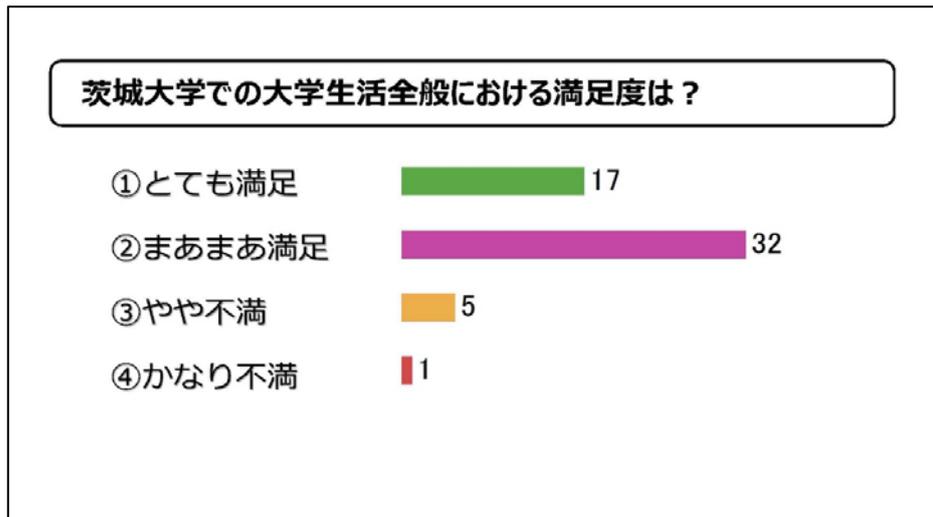
写真：懇談会の様子（3）



写真：懇談会の様子（4）

令和元年度後学期 学長と学生の懇談会

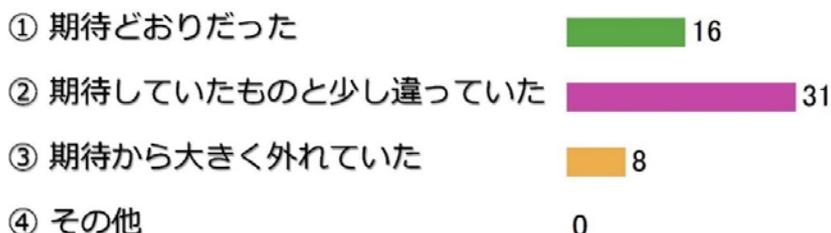
クリッカーアンケート結果 及び学生からの意見



【学生の意見】

- ・大学に入学した当初は勉強していたが、サークル活動などを始めて減った。(学部不明)
- ・大学に入学して、差し迫った目標が無くなった。(学部不明)

大学での学びは入学前に期待していたものと比べてどうでしたか？



【学生の意見】

- ・自分が好きな授業を取れると思っていたが、ほとんど同じような授業で自分のイメージしていた授業が取れなかった。(工学部)
- ・実験を含んだ専門科目が少ない。2年生になったら実験を含んだ専門の授業が増えることを期待している。(工学部)
- ・専門一辺倒の授業ばかりと思っていたが、基盤科目で専門とは違う授業を取ることができて良い意味で期待と違っていた。(工学部)
- ・基盤科目の生物・数学の内容が高校と変わらない。授業を自由に選べると思っていたが選ばされてるようだ。(理学部)
- ・物理・数学は期待どおりだったが、基盤科目、特に茨城学が期待から大きく外れていた。クォーター制の授業は8回で何が出来るか。何のためにクォーター制にする必要があるのか分からない。また、キャップ制に引っかかって自由に取れず不便。(理学部)
- ・人文社会科学部は、サブメジャーで他の学科の科目を取れるのは良いが、取らなくちゃいけないのは違うと思う。(人文社会科学部)

授業における全体的な満足度は？



茨城大学のディプロマポリシーが以下の5つであるのを知っていますか？

- ① 世界の俯瞰的理解 ② 専門分野の学力 ③ 課題解決能力・コミュニケーション力
④ 社会人としての姿勢 ⑤ 地域活性化志向



9

大学入学後、茨城大学ディプロマポリシー（5つ）のうちどの力が最も伸びたと思いますか？



10

【学生の意見】

- ・農学部の授業で日本と世界の違いを自分で調べ、世界に関心を持つようになった。(農学部)
- ・都市システムについて日本と世界の都市を比較して都市問題を調べたことで、世界の俯瞰的理解が進んだ。(工学部)
- ・いろいろな人と話して自分たちの答えを見つけることが多いので、コミュニケーション力が身についたと思う。(教育学部)
- ・地学関係のサークルに入っていて気象観測をしたときにパワポを作ったり、先輩から指導を受けたりしてコミュニケーション力が身についた。(理学部)

基盤教育では英語教育に力を入れていますが、
大学入学後英語力は伸びましたか？

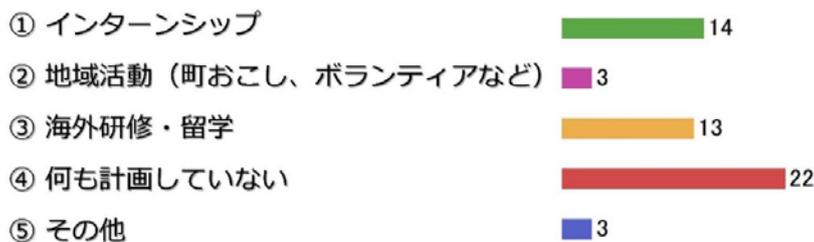


11

【学生の意見】

- ・大学の英語が生ぬるい。課題も少なく人から言われないと動かない性格のため英語の学力が下がってきた。TOEICのテストも芳しくなかった。もっと質と量のある授業を受けたい。(学部不明)
- ・プラクティカル・イングリッシュのクラス分けが不満。英語が苦手でもう少し基礎的なことやコミュニケーションについて学びたかったが全くなかった。(理学部)
- ・英語でプレゼンテーションの機会があり、相手に英語で伝えるということを意識して勉強できた。(理学部)
- ・1年間を通して一つのエッセイを英語で書くテーマの授業で、英語を書く力が伸びた。ただ、英語の読む書く話す聞くを一つの授業にまとめるのは難しいと思った。(教育学部)

iOPについて、何をしようと計画していますか？



12

【学生の意見】

- ・インターンシップを企業や研究所でやりたいが、先輩からレポート地獄でインターンシップどころではないと聞いている。(理学部)
- ・小学校の頃から福祉に興味がある。日本の介護はボランティアで何度か体験したので、海外の介護について勉強したい。(学部不明)

学修環境（図書館、ラーニングcommons など）における満足度は？

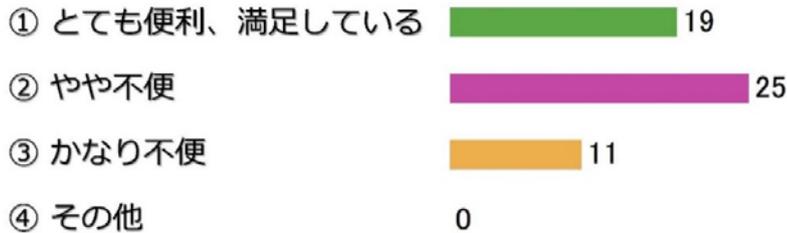


14

【学生の意見】

- ・練習室のピアノの調律が悪い。ピアノを優しく使って欲しい。定期的に点検をして欲しい。練習室から音が漏れるのでなんとかして欲しい。(教育学部)
- ・図書館の閲覧室のWi-Fi環境を改善して欲しい。(理学部)
- ・人文10番教室の換気の性能が悪く、空気がよどんでいて気分が悪くなるので改善して欲しい。(人文社会科学部)
- ・図書館の開館時間が短い。地元の大学は365日24時間開館している。特に土日や長期休業期間中など短く、どうにかして欲しい。(工学部)

大学の主な情報連絡ツールとなっている「教務情報ポータル Dream Campus」の利便性についてどのように感じていますか？

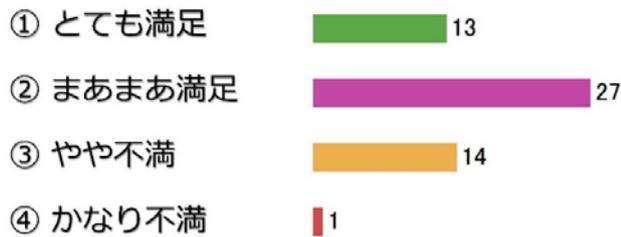


15

【学生の意見】

- ・iPhoneのサファリで成績が見られない。長期休業期間中にドリームキャンパスが完全に使えない時があり大変困る。ドリームキャンパスを使ってレポートを出す授業があり、ダウンロードができずに困っていた学生がいた。(学部不明)
- ・成績が見づらい、時間割が見にくい、履修届が出しにくいなどやりにくいことが多い。学籍情報を変更したいのに変更できる時期が決まっているなど、制限が多すぎて不便(学部不明)
- ・ドリーキャンパスのお知らせをもっと区分けして見やすくして欲しい。(学部不明)
- ・工学部1年生は水戸にいるのに、日立キャンパスの関係のない連絡が頻繁に来る。日立キャンパスにいない学生にとってはうっとうしい。(工学部生)

担任教員をはじめ教員との交流における満足度は？

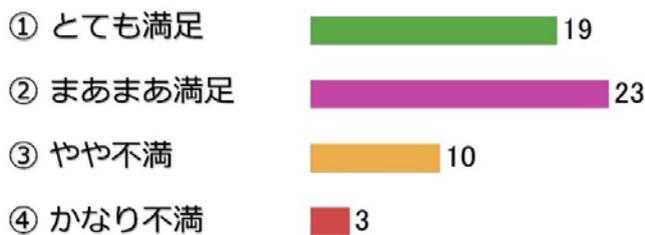


16

【学生の意見】

- ・担任教員と授業等で会う機会が無いので、話しをすることが無い。(理学部)

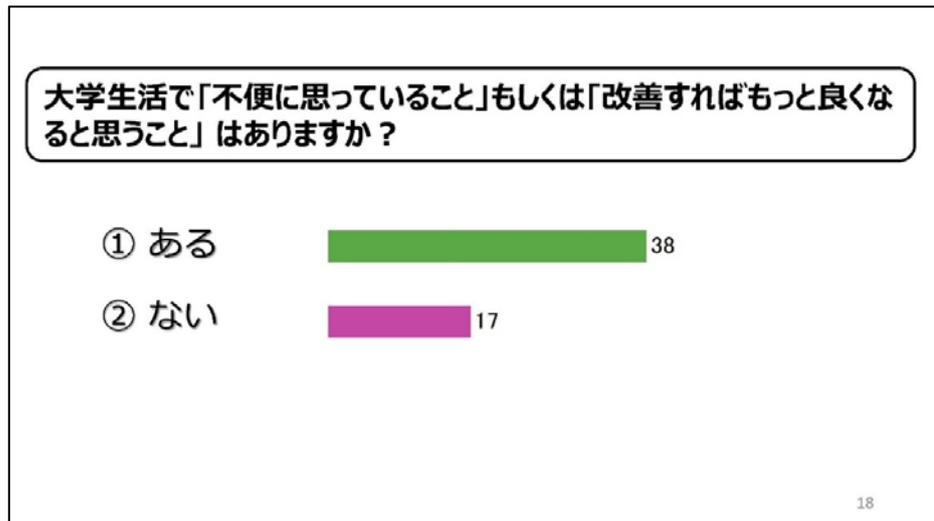
事務対応における満足度は？



17

【学生の意見】

- ・履修カードの場所を聞いたら分からないとの回答で終わってしまった。(学部不明)
- ・奨学金担当者の対応が丁寧で良かった。(学部不明)
- ・お役所感が強く、なんとかして欲しい。(学部不明)
- ・落とし物が届けられる場所が複数あり、たらい回しにされた。一カ所にまとめて欲しい。(学部不明)
- ・留学関係の窓口で相談に行ったところ、留学に関する奨学金のことなども丁寧に教えてくれた。(学部不明)
- ・理学部の窓口で留学のことについて相談したら、単位のことなど親切に対応してくれた。(学部不明)
- ・サークル活動について広報の方と話しをしたときに、的確にアドバイスしてくれた。(学部不明)



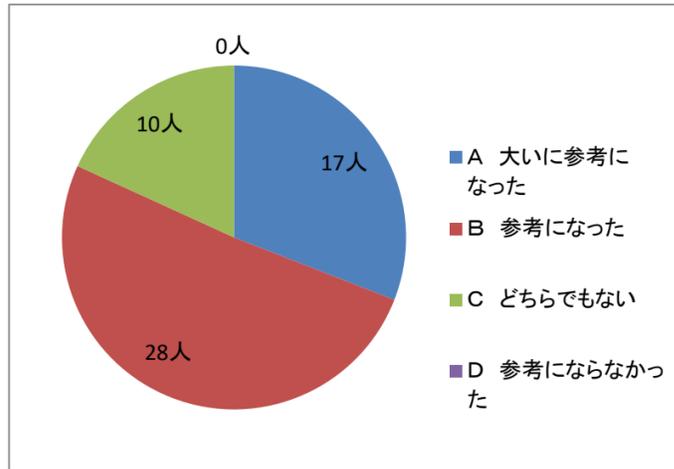
【学生の意見】

- ・BYODが実施されるが、PCを購入するのが経済的に厳しい。半年だけでもPCを貸し出して欲しい。(学部不明)
- ・BYODになるとPCを持ってくるのが大変なので、大学のPCを残して欲しい。(学部不明)
- ・異文化コミュニケーションの授業を二つ取れるようにして欲しい。(学部不明)
- ・授業のスライドをできるだけ出して欲しい。紙も配られなくてメモしきれない授業があった。(学部不明)
- ・入学手続きで納付金の説明があるが、どれを納入しなければならないのか、任意なのか分からなくて手間だった。(学部不明)
- ・この懇談会の場くらいしか学生の意見を言う場所がないので、ドリームキャンパスなどで意見を言えるようにして欲しい。(学部不明)
- ・ブルートゥース対応のプロジェクターが欲しい。(学部不明)
- ・人文棟のトイレの石けんを、薬用石けんにして欲しい。(学部不明)
- ・夏はトレーニングルームの温度が上がってしまい、窓を開けると虫が入ってきてしまうので、エアコンか網戸をつけて欲しい。(学部不明)

令和元年度後学期 学長と学生の懇談会 実施後に行ったアンケートの集計結果

アンケート提出者：55名 / 懇談会参加者：55名 （回収率：100%）

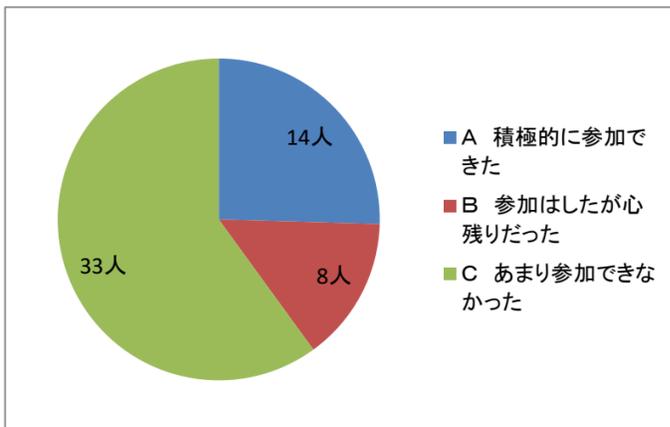
1. 懇談会の内容は参考になりましたか？



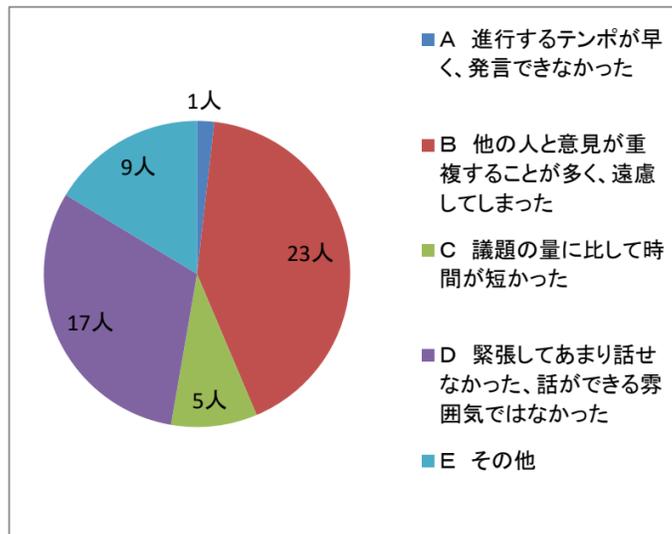
参考になった主な内容

- ・他の学部、学科の学生の様々な意見を聞くことができた。（18人）
- ・大学側がどんな事を考えているかわかったから。（2人）
- ・いままで意識していなかったことも聞けてよかった。（2人）
- ・懇親会の内容を事前に知らせてもらえればより充実したと思う。
- ・自分の疑問に思っていたことについて知ることができた。
- ・大学側の姿勢と学生側の意見を知ることができた。
- ・否定的な意見と肯定的な意見が同じくらい出ている問題については結局変わらないだろうと思うから
- ・他の人の意見が聞けてよかった。回答をその場で聞けてよかった。

2. 懇談会では、積極的に意見を出せましたか？



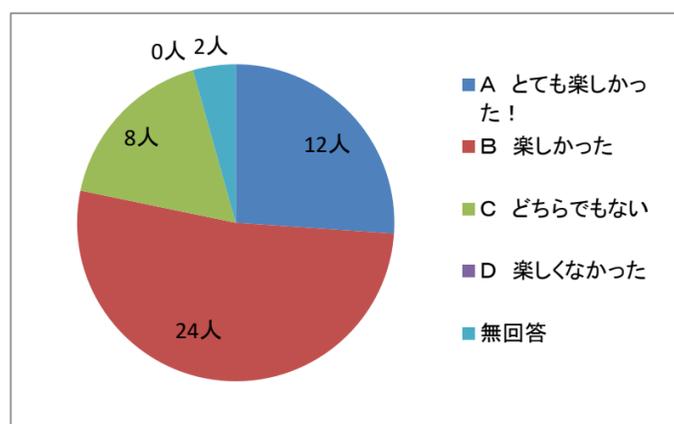
3. 参加はしたが心残りだった、もしくはあまり参加できなかった理由を教えてください。



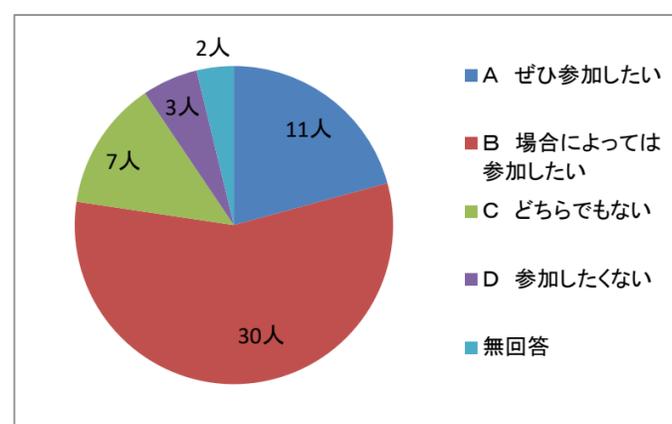
「E その他」の具体的な内容

- ・場の空気や雰囲気、細かい内容やとても思い切りのある意見が出しにくかった。
- ・思っていることはアンケートに書けば良いと思ったから。
- ・同じ人が発言することが多く、話しづらかった。
- ・聞かれる内容を事前に教えてほしかった。伝えたいことをまとめてから臨みたかった。
- ・学生が厳しい意見をたくさん言っていて、良い意見が言いづらくなってしまった。
- ・特に大学について意見はないから発言しなかった。（2人）

4. ズバリ！ 学長とお話するのは楽しかったですか？

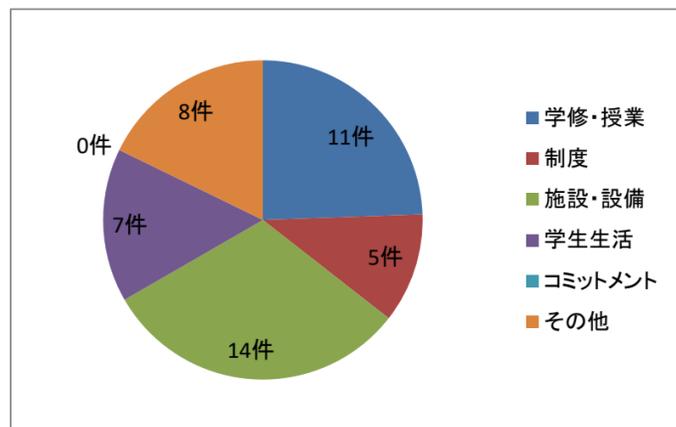


5. 今後、同様の懇談会が開催されたら、参加したいと思いますか？



※ 設問6、7、8は自由記述のため記載内容により項目立てをして集計を行い、各項目の意見の要旨を記載する。

6. 今回の懇談会では伝えきれなかった大学へのご意見・ご要望をお聞かせください。



「学修・授業」に関すること

- ・阿見キャンパスで水戸キャンパスにもある英会話(20~30分くらいALTや英語の先生と話す)のシステムがほしい。英語の授業に関しては成績によってクラスを分けるのではなく、やる気によって分けてほしい。大学生になったから自分のしたいことは決められるので、やる気がある人は伸ばしてほしいし、別に向上しなくていい人は問題などが少なくてもいいと思う。
- ・英語に力を入れているのは初耳で、というくらい信じられなかった。大学で半年間書いたエッセイ、高校のときは3ヶ月位で終わっていて英語力の低下が激しいと思いました。
- ・茨城学についてですが、授業の目的そのものはいいと思います。内容を回ごとに分けるのではなく、統一性をもたせて学生に自主的に覚えさせる部分を強化するなど改革を進めたらいいかでしょうか。
- ・英語教育の見直しが必要。
- ・先生方が忙しいから仕方ないのかもしれないけど、集中講義の日程をもう少し早く知らせてほしい。
- ・同じ教科や科目でも、先生によって資料が配られたり配られなかったり差がある。
- ・私は工学部電気電子システムの者なのですが、私の学科は1年時の授業が少ないため、2年以降の授業を少しだけ水戸で受けられるようにしてほしいです。
- ・教育学部美術選修1年次です。美術史・美術理論に関する授業が1年間で1Qしかなかったのが残念です。美術史・美術理論について知識が期待していたよりも身につかなかったのが、今回の懇談会非常に有意義でした。
- ・農学部と工学部の1年生が水戸で必修の単位を落とすと2年次以降に水戸通いを行わなければならない、金銭的・時間的に負担が大きいと思うので、長期休暇中などに救済措置をとってほしい。
- ・教育学部のシステムにはとても満足しています。教育実践科学コースなのですが、入学してから科目を選べるシステムや教育学部の授業はとてもいいと思っています。
- ・授業によって公欠にしたりしなかったりするのをやめてほしいです。
- ・他の学部の授業を取りやすくしてほしい。
- ・PBL授業をもっと増やしてほしい。
- ・茨城学はもっと少人数で行ってほしい。
- ・CAP制をなくしてほしい。
- ・先生が説明するだけの授業は飽きてしまいます。

「制度」に関すること

- ・教育学部だけ学生証をかざすだけで学部棟に入れるのは羨ましい。人文や理学部棟にもそういう制度が欲しい。
- ・ヨーロッパやアメリカへの留学だけでなく、オーストラリアなどのオセアニア州への留学へも対応をお願いします。
- ・担任制度のことですが、自分は他大学への進学を入学当初から考えていて、誰に相談すればいいのかが入学する前は不安でした。その中で担任の先生がいることで相談でき、なおかつその方が自分のいきたい大学の出身でした。今は距離的に交流は少ないですが、今後頼らせていただきたいと思っています。
- ・担任制度にはとても助けられている。

「施設・設備」に関すること

- ・自転車置き場がなぜ減少したのかを是非教えていただきたい。残りの自転車置き場の治安が非常に悪いので、改善、または棟前の自転車置き場を開放してほしい。
- ・土日エレベーターを動かしてほしいです。
- ・グラウンドの照明が足りない。冬は暗くなるのが早いので、部活をやっているととても危険な日がある。教育学部棟じゃない方にほしい。
- ・柔剣道場にストーブがほしいです。部活・授業のとき寒いです。
- ・教育学部C棟のピアノがボロすぎなので改善してほしいです。
- ・昼食を食べるスペースを増やしてほしい。
- ・みずき寮の改善。共通教育棟の椅子が硬い。

「学生生活」に関すること

- ・雨天時の移動が不便
- ・教授の人間性によって振り回される先輩をよく見るので、相談に乗ってあげてほしいです。
- ・私は7月上旬から10月後半まで入院していたのですが、そのときに単位やテストのなどを学務に聞いたのですが、快くメールで返信していただき、対応も丁寧だったのでありがたかったです。
- ・駐輪場のマナーの悪さ、駐輪場を増やしてほしい。
- ・わからないことをどこに聞けばわかるか、をわかりやすくしてほしい。

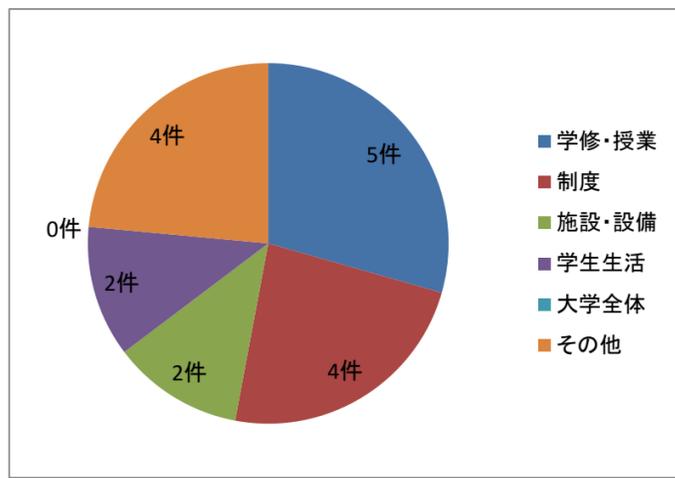
「コミットメント」に関すること

(意見等なし)

その他の要望

- ・教育学部棟のトイレに石鹸をおいてください。
- ・人文社会科学部棟の固形石鹸を液体石鹸にしてほしい。
- ・駅からのアクセスが悪い。バス料金が安い。茨大生が安くなったりすると思う
- ・オリンピックボランティアの活動期間と前期の期末試験が重なりそうなので、配慮をお願いします。(例として筑波大学のように)
- ・学生証に生年月日を書いてほしいです。身分証として使えないので奨学金申請等で困ります。
- ・茨城大学はまず金銭的な問題を解決するべきだと思う。
- ・参加していない他の学生のためにも、アンケートのようなものを出していただきたい。
- ・学食パスをコンビニでも使えるようにしてほしい。自習室の机にライトを設置してほしい。

7. 今後、学生懇談会や学生アンケートを行う際に、取り上げてほしいテーマはありますか？



「学修・授業」に関すること

- ・サブメジャープログラムについて
- ・茨城学について
- ・自由履修について

「制度」に関すること

- ・奨学金や授業料免除について
- ・インターンシップについて
- ・留学について
- ・CAP制について

「施設・設備」に関すること

- ・施設について
- ・履修登録の簡略化について

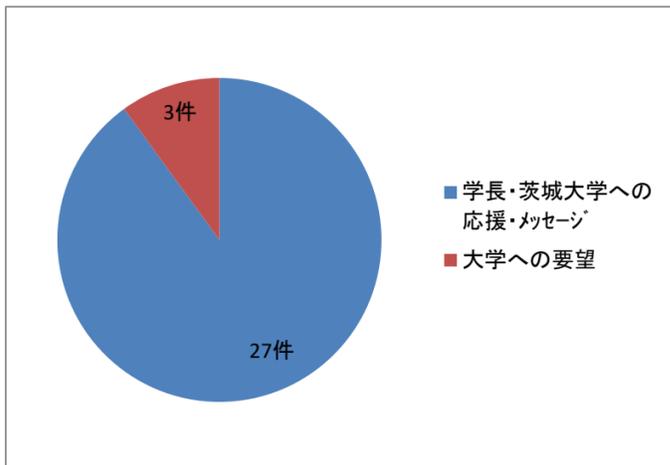
「学生生活」に関すること

- ・サークル・部活について
- ・学習相談について

その他

- ・ジェンダーについて
- ・今回のままでいい（2人）

8. 学長へのメッセージをお願いします！



学長・茨城大学への応援・メッセージ

- ・学生の声を積極的に取り入れていただけることを期待しています。
- ・話しやすい雰囲気の方だと感じました。学生にとって身近な学長であってほしい。
- ・よくないところもあるけど、いいところもしっかりあるので頑張ってほしい。
- ・一度にすべてを解決するのは時間的にもお金的にも厳しいと思うので、少しずつでもいいので対応してくれると嬉しいです。
- ・厳しい財政状況のなか、大学の改善に力を尽くしてくださっていると思います。人間と言うには更に良い環境をもとめるものなので今回の意見を聞き入れ、さらに努力していただければと思います。
- ・私は茨城学は楽しいと思っていました。地元でない人には退屈かもしれないけど、地域貢献などの役に立つと思うので、いいと思います。

大学への要望

- ・茨大は節約すべきだ。
- ・設備を充実させてほしい。
- ・農学部を優遇してほしい。

9. その他、懇談会に関する感想・ご意見等ございましたら、自由にお書きください。

- ・iOPは1, 2年生の時でも、ある程度基準を満たしていれば認定して単位もほしいです。
- ・茨城学はやりたい人が行えるようになるほうが良い。将来茨城で就職する人には必要だと思うので、選択授業にしてほしい。
- ・学習環境やシステムが便利になることはたしかにありがたいが、今回出された意見の中には少し我慢すればいいことや、自分で解決できることが多かったと感じた。学生の意向・意見の質に個人的に不満を感じた。
- ・特定の人が意見する環境でなかなか意見を言いづらいなと思いました。
- ・もう少し少数で行ったほうが意見しやすいと思います。
- ・自分たちでどうにかできることや、自分たちが確認していなかったことに関して、いちいち大学に向けて意見している人がいてそれは違うなと思った。
- ・クリッカーではなく、Googleフォームを使えばいいのではと思いました。
- ・全学部一緒なので、各学部のことについて少し言いづらい気がしました。

2019/12/06

「2019 学長と農学部学生との懇談会」実施報告書

I 実施概要

実施日時	2019年12月4日(水) 14:30 ~ 16:15
場所	農学部 100番 講義室
参加者	学生 47名(農学部2~4年生)、 教員 8名(三村(学長)、戸嶋(農学部長)、福与(農学部 学生委員長)、 木下(農学部 教務委員長)、西川(学長特別補佐)、中島(農学部)、高瀬(農学部)、白岩(農学部)) 職員 3名(長山(農学部 事務長補佐)、高橋(農学部 事務長)、塚田(学生支援課 課長補佐)、千葉(農学部)、野口(農学部))
背景・趣旨	学長と学生の懇談会は水戸キャンパスにて年2回(対象:前期2年生以上、後期1年生)行っているが、2年生以上の学生の懇談会については、農学部学生の場合、専門の授業や移動の問題から参加したいと思ってもなかなか参加できないことが多い。学部執行部と学生との懇談会における学生意見がある程度蓄積されてきており、その中には全学の問題として声を届けたいものも複数ある。学長と農学部学生との懇談会を阿見キャンパスで開催することにより、学部内では対応しきれない農学部学生の声を学長をはじめ大学執行部に十分に届け、互いに理解を深めることを目的とする。
進行形式	事前に、学生によってまとめられた質問したい内容に関する資料の提出があった(参考資料1)。それら意見が出しやすく配慮したpower point 質問スライドを作成し、水戸キャンパスで行われている懇談会と同様にクリッカーを用いて、学長から投げかけられる質疑応答を中心に進められた。懇談会実施後に、懇談会に関するアンケート調査を実施した(参考資料2)。

II 懇談会の結果概要

1. クリッカーにおける参加学生の満足度結果(参考資料3)

1) 大学生活全般の満足度

[とても満足 0人、まあまあ満足 13人、やや不満 27人、かなり不満 0人]

2) 基盤教育(教養教育)の満足度

[とても満足 2人、まあまあ満足 37人、やや不満 8人、かなり不満 0人]

3) 専門教育の満足度

[とても満足 5人、まあまあ満足 29人、やや不満 9人、かなり不満 3人]

2. 学生から出された主な意見・要望と検討課題（意見は3つのカテゴリーから成る。（基盤教育、専門教育、大学生生活全般））

【基盤教育について】

- 1) 英語教育について下記①～③の農学部学生からの要望があった。
 - ① 茨城大学には、「ENGLISH LOUNGE」、「英語なんでも学習相談室」、「英語コミュニケーショントレーニング」、「ネイティブ教員（全学教育機構）と英会話プライベートレッスン」などの英語学習相談・トレーニングシステムが設けられています（全学教育機構ウェブサイトより）。これらは、全学部学生が同等に利用できるはずであるが、現在このシステムは水戸キャンパスだけで開催されていることから、キャンパスが離れている農学部2年次以上の学生が利用することは現実的に厳しく、実質上、利用できる状況にありません。学生規模や予算の問題等があることは十分に理解できますが、せっかく有効な教育支援として整備いただいたシステムであり、また、利用したいという農学部学生の要望が強いことから、全学生が同等のサービスを受けられるように改善いただきますよう、ご配慮願います。
 - ② グローバル英語プログラム（GEP）は、海外の大学で学ぶあるいはグローバルな視点を持って活躍できる能力を教育する学習プログラム（全学教育機構ウェブサイトより）とされていますが、それに見合う授業内容になっていないと感じます。このプログラムはTOEIC550点以上の学生を対象とされていますが、学生を限定した授業のレベルとも思えないところがあります。農学部は国際的なコースもあり、英語学習を重要視する学生が多数いるため、改善していただきますようお願いいたします。
 - ③ 農学部（阿見キャンパス）で開講される英語の教員数が少ないため、必然的に1クラスの学生が多くなっており、水戸開講の少人数制授業と比べ、授業の内容の濃さに違いがあると感じます。また、このように教員が少ないことから、GEP における知識元が数人の教員のみとなり、多様性が得られないと感じています。
- 2) 基盤教育は本来専門とは異なる多くの分野に触れ知識を広める機会と考えるが、一部の授業では専門分野の内容に置き換えたものになっていた（ex. 歴史の授業がトラクターの歴史や農業史といった専門に特化した内容になっていた）。基盤教育の基本的な目的（専門に限らず広く学ぶ）を明確にし、その目的に沿って全授業が行われるよう徹底してほしい。
- 3) VCS を活用した授業を増やし、阿見からも受講できるようにしてほしい。

【専門教育】

- 1) 高校で既に学習した内容との重複、授業間での内容の重複が多くある。また、専門の基礎をしっかりと学びたいが、各教員の専門内容に偏った内容のものが多く。内容についてもう少し吟味し精選し、より積み上げ式にシステマティックに学べるようにしてほしい。

- 2) 補講について、他の授業とかぶりどうしても出席できない場合があり、その際に成績への配慮がなく点数が下がることがある。GPAにも影響するので、評価の制度をもう少し綿密にきめておいてほしい。
- 3) 教員免許取得を目指していたが、身体活動の授業が阿見キャンパスでは受講できず、取得を断念するケースが多い。農学部学生の教員免許取得について配慮をして欲しい。

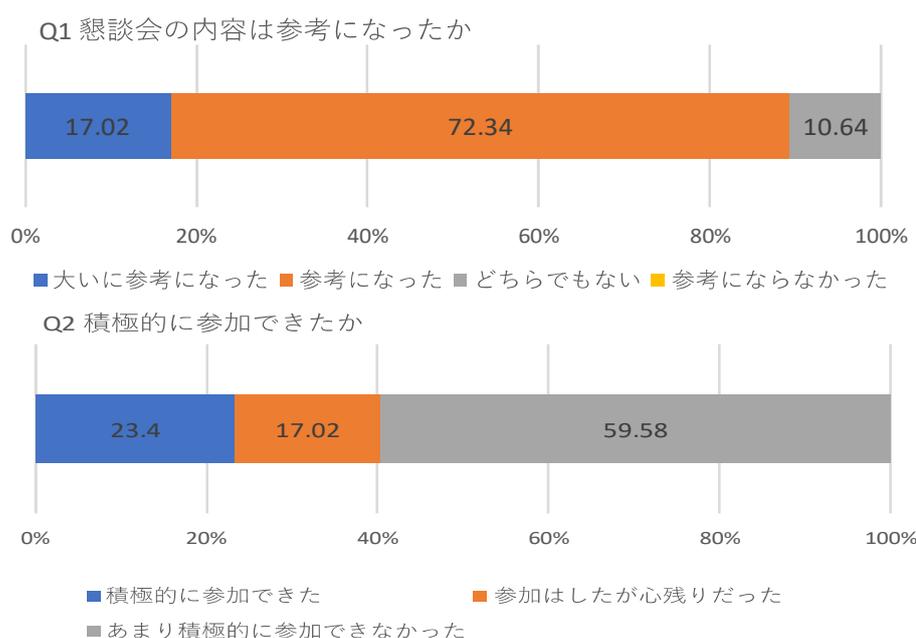
【大学生生活全般（施設等）】

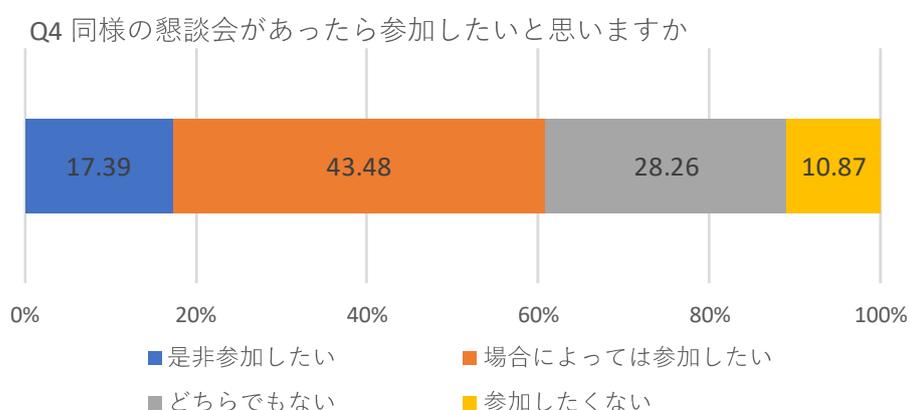
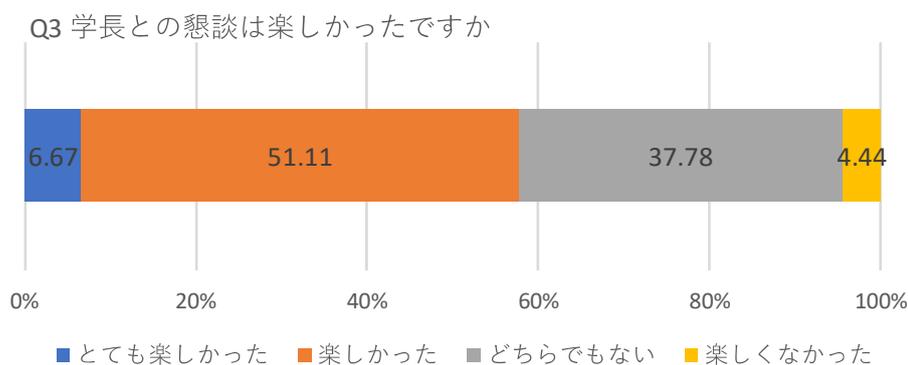
- 1) 生協の営業時間についてもう少し枠を広げて欲しい。特に、集中講義が多く入っている土曜日や通常の夕方など、検討してほしい。
- 2) 棟内の照明で非常に暗い場所がある。利用の多いメインの場所だけでも改善してほしい。また、実験をしていて両手がふさがっているときなどを考えると、自動点灯するものへの交換についても検討してほしい。
- 3) 駐車場の利用料金について年間利用の料金体系だけではなく、1日利用などの料金設定も検討してほしい。常時利用の通学ではなく単発で車を利用する人も学生の中には多く、体育館前の駐車場をイレギュラーで利用している問題への対応策にもなると思われる。

※ 上記の懇談会で取り上げられた質問については、各関連部局に連絡し検討していただくよう依頼した。また、質問の中には学生の実事誤認と思われるものもあり、今後それらについてはガイダンス等で誤解が生じないように説明していくこととした。

Ⅲ 懇談会後のアンケート結果

1. 選択肢質問回答の結果





2. 自由記述による意見

1) 参考になったこと

- システム的にできないことや前から考えていることがわかった。
- 学校側の考えを聞いたことで、納得する部分があった。
- VCS 配信等で講義を行うのが難しい理由について聞いたこと。
- 学生の要望に対してどのような対策が進められているか知ることができた。
- 学長でも把握しきれていない各キャンパスの状況があるということがわかり、意見を言うことの重要性がわかった。
- ずっと疑問に残っていた部分がきちんと議論されたことがあるのか不明だったが、きちんと明示してくれ参考になった。
- 特に GEP 授業に対して疑問を抱いていたことへの説明を聞いて良かったです。
- 学生の意見と学長先生のお考えや今後の動きを聞くことができたこと。
- 自分では気が付かなかった阿見キャンパスの問題が分かった。
- 単位を与える講義の基準や、その理由、学長の考えをお聞きできたこと。
- 多少なりとも大学側も動いていることが分かった。

- 学生の要望に対して学校側がどのように考えているか分かった。
- 気になっていた点の理由が分かったこと。
- 学長が現在のカリキュラムや設備に関する意見についてどう思っているのか聞いてよかった。
- 皆が思っている問題点を聞いて良かった。
- ビデオ授業は制度的に単位にするのが難しいというのは初めて知ったので、参考になりました。

2) 懇談会では伝えきれなかった意見・要望

- 駐車場のICカードを全キャンパス共通にすることはできませんか？ サークル活動や水戸開講の授業を受ける際など、阿見で料金を払っているのに使えないのは不便です。
- 水に対する対応について危機感が足りないように思った。
- 体育館前の駐車スペースにもゲートをつくるべきではないかと考えた。
- 必修の授業で使う教科書の数が不足し、注文販売になることがあり、何回か教科書なしで授業を受けることになっている。
- その時の課題に合わせて常に変わっていく大学であってほしいと思った。時代に合わせて変わってほしいと思った。
- トイレの水道を自動で出るようにしてほしい。トイレの電気や階段の電機などをもう少し明るくしてほしい。
- 阿見ー水戸ー日立のシャトルバスなど、アクセスしやすいようにしてほしい。
- 生協書店の品揃えが偏っていると感じる。具体的には資格試験に関する書籍が一番多く、ビジネス書はほとんど無い。
- キャンパス間格差について、学部ごとの特色を出すのか、水戸キャンパスを基準に考えるのかで運営が変わると思うが、どのように考えているのか？
- 夜遅くまで利用可能な軽食が採れるスペースがあると有難いです。外のベンチが増えた点がありますが、冬の寒い夜や雨の時には利用が難しいかなと思います。100講義室前廊下にベンチがありますが、夜間は通行止めになり利用できない。
- 教職と身体活動について授業科目はあるが、設備、先生の都合などで、教職希望者全員が受講できなかった、という背景があります。
- 学校単位でのアンケートを行ってほしい（クラス委員では限界がある）。ビデオ視聴を希望する学生は、単位欲しさで言っていない人もいると思うので、ぜひ実現してほしい。English Labの話があったが、ビデオ通話等のシステムは利用できないのか。
- 体育の授業は先生が一人のため、授業人数により制限があるために受けられない人がいる状況です。
- 1年次に水戸で履修した英語の授業はレベルが3つに分かれていて、それぞれのレベルに対してたくさんの先生がいて、授業内容も満足できるものだった。しかし、2年次に受

けた英語の授業レベルは4つに分かれているが、それぞれのレベルに先生が一人しかいない。一番高いレベルのクラスだったが、授業内容は高校レベルかそれより簡単なもので、物足りなさを感じた。

- 食堂の拡張か、生協のレジを増やすか、近くにコンビニが欲しい。講義棟にエレベーターが欲しい。又は図書館のエレベーターを使えるようにしてほしい。
- フードイノベーション棟を地域総合農学科の学生にも使わせてほしい。
- 国際コースで分かっている情報が乏しく、不安や心配が多い。
- 学務があまり仕事をしてくれない。今回のようなクラス委員が行ったアンケートも本来学務がするべきではないか？

3) 学長へのメッセージ

- 来てくださりありがとうございました。
- 学生の意見を真摯に受け止めてくださりありがとうございました。残りの任期も短いですが頑張ってください。お疲れさまでした。
- いろいろな意見を肯定していただきありがとうございました。
- 公休の話はなるほどと思いました。
- 学生がその場で発言したことに対して、すぐに考えてコメントをするという学長としては当たり前かもしれないけれど、それができていることに感動していました。あと4か月ですが、どうぞよろしくお願いします。
- あと4か月頑張ってください。ありがとうございました。

4) 懇談会への要望

- 時間が過ぎるのがあっという間だったので、あと30分ほどあっても良いのではないかと思いました。
- 昨年、水戸の懇談会に参加しましたが、阿見に関する意見が少なかった印象があり、今般、阿見キャンパスで開催いただけて良かったです。
- 今回の懇談会はクラス委員の負担が大きいように感じた。クラス委員の方々ありがとうございました。

Ⅳ 懇談会の様子



ゲートキーパー養成講座

ゲートキーパーについて、あまり聞きなれないといった方も多いかと思います。ゲートキーパーとは、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のことで、言わば「命の門番」とも位置付けられる人のことです。自殺対策では、悩んでいる人に寄り添い、関わりを通して「孤立・孤独」を防ぎ、支援することが重要です。専門性の有無にかかわらず、それぞれの立場でできることから進んで行動を起こしていくことが自殺対策につながります。

大学生は、今後の自身の人生を考えて特に心の揺れの多い時期にあります。大学生の指導にあたる教職員の方々において、ゲートキーパーとしての知識を備えていることはとても有意義であると考えられます。この機会に是非一度、ゲートキーパーについて学んでみませんか。

<開催概要>

日時： 2020年2月10日（月） 15:00 ～ 16:30

場所： 茨城大学水戸キャンパス 共通教育棟 2号館 11番教室
日立キャンパス（VCS）：第2・第3会議室
阿見キャンパス（VCS）：第1会議室

講師： 白鳥 裕貴 先生（茨城県立こころの医療センター 精神科医、筑波大学
保健管理センター精神科兼務）

対象： 茨城大学 教職員

内容： 『ゲートキーパーとは』

ゲートキーパーとはどのようなものか、その役割と大学での必要性について、初心者向けにスライドを用いてわかりやすくご講義いただきます。

主催： 保健管理センター、全学教育機構

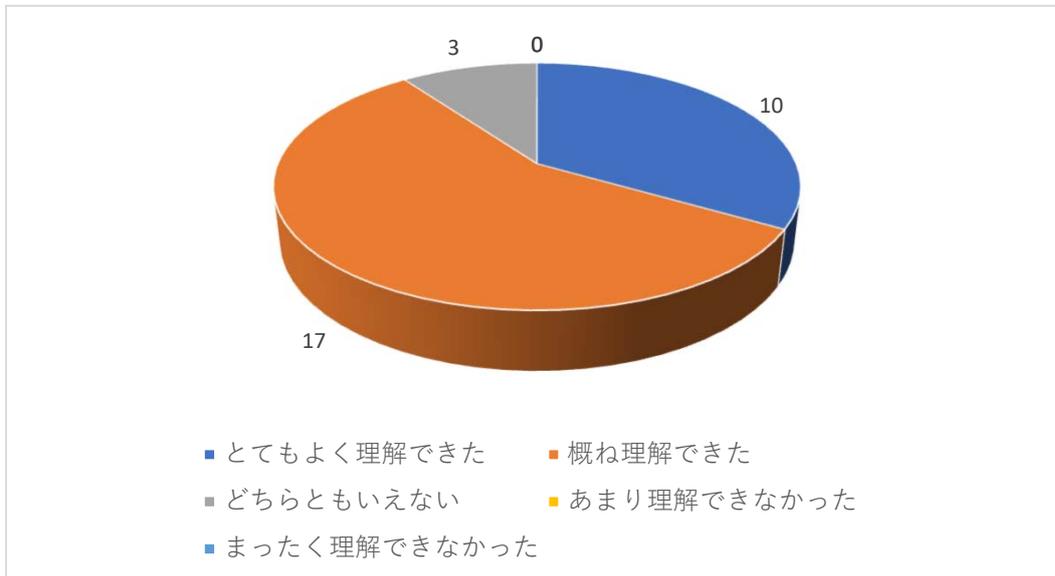
お問い合わせ先：茨城大学 学務部 学生支援課

☎：029-228-8060

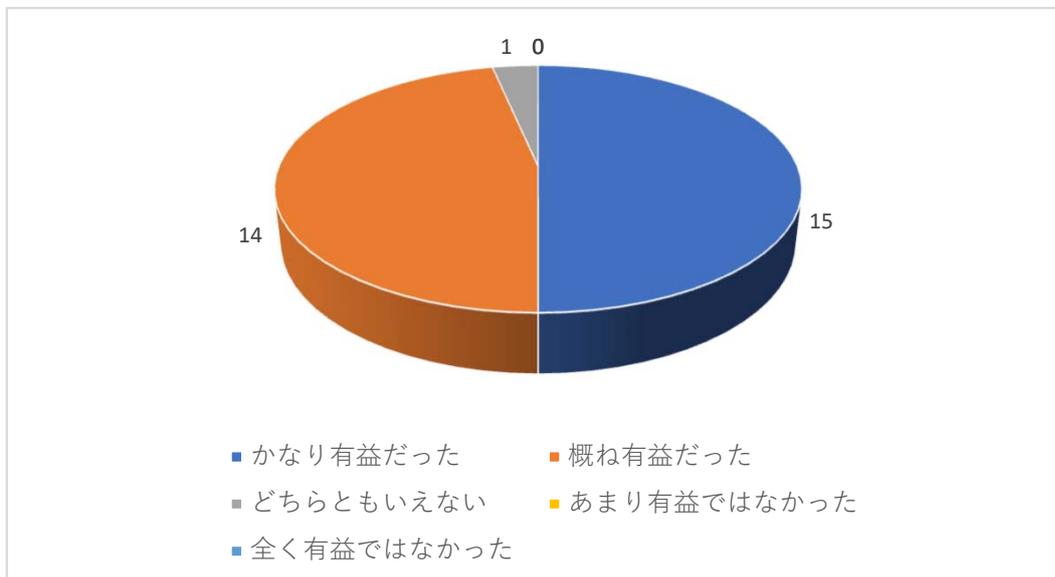
令和元年度ゲートキーパー養成講座 アンケート集計結果

アンケート回答者数：30人

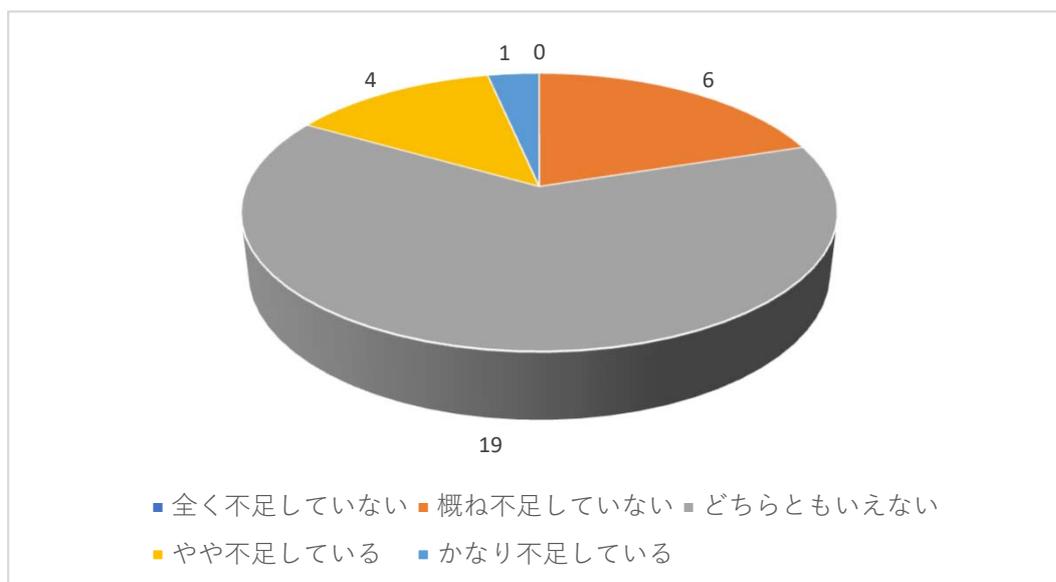
1. 本日の講座を受講し、どの程度ゲートキーパーについて理解しましたか？



2. 本講座の受講はあなたにとって有益でしたか？



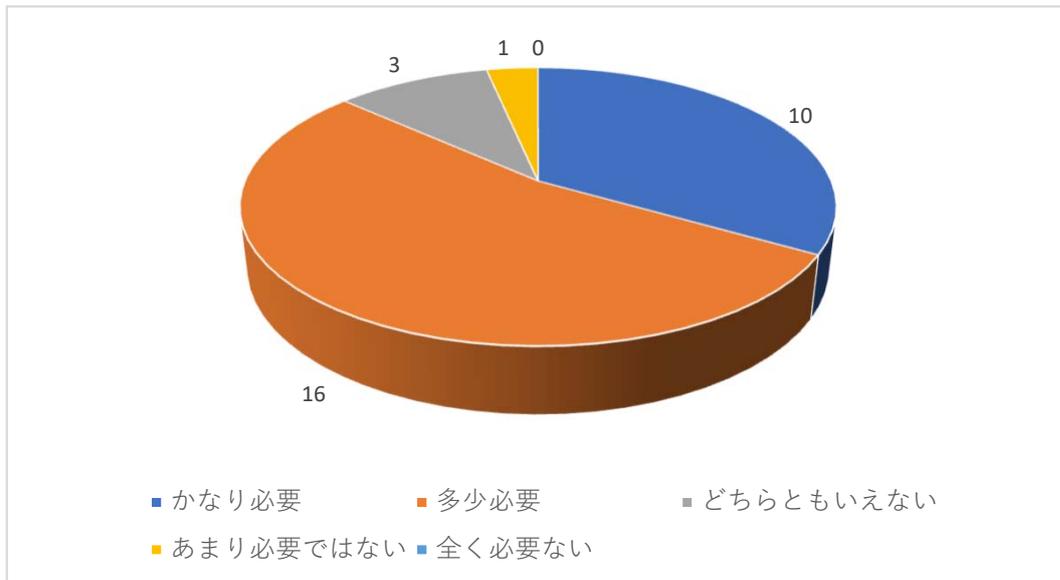
3-1. 本学において、学生の自殺対策は不足していると思いますか？



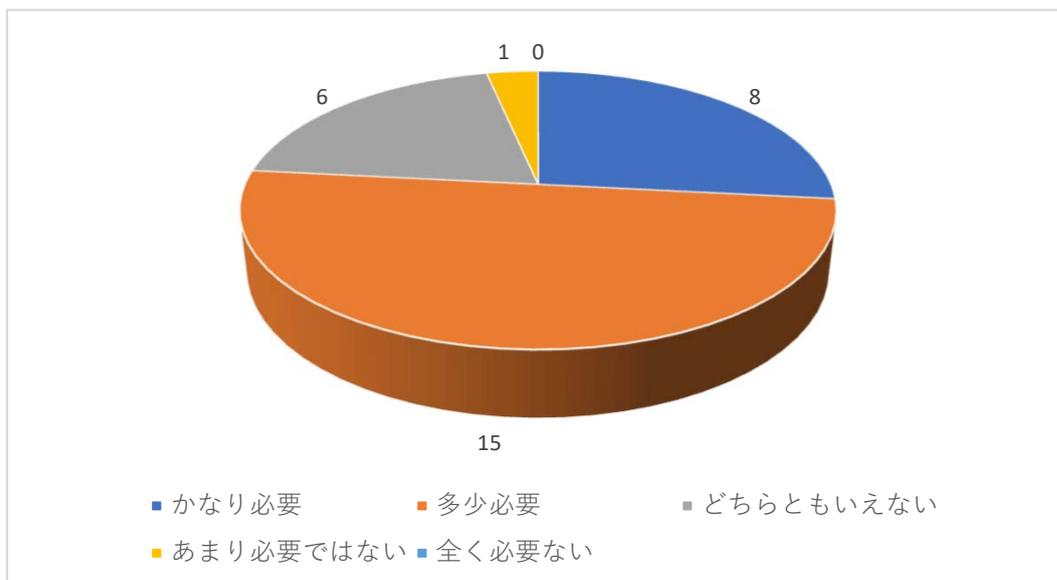
3-2. 不足しているとお考えになられる方は、何が本学の学生自殺対策で不足していると思いますか。

- 学生の個人情報非公開のため、学内で何がどのくらいあり、どんな対応を行っているのかは分からない。
- 学生支援における「相談員」の予算が足りず、必要な人員が雇えていない。
- すべて個別のケースのため足りない場合もあると思われる。
- 自死遺族の対策はどうなのでしょう。
- 対策があることが分からない。（情報が入ってこない）
- 対策があるというのを知らない。（聞いたことがない）
- 特に具体的に考えたことがなかった。
- 健診でのスクリーニングは実施したら良いのではないか。

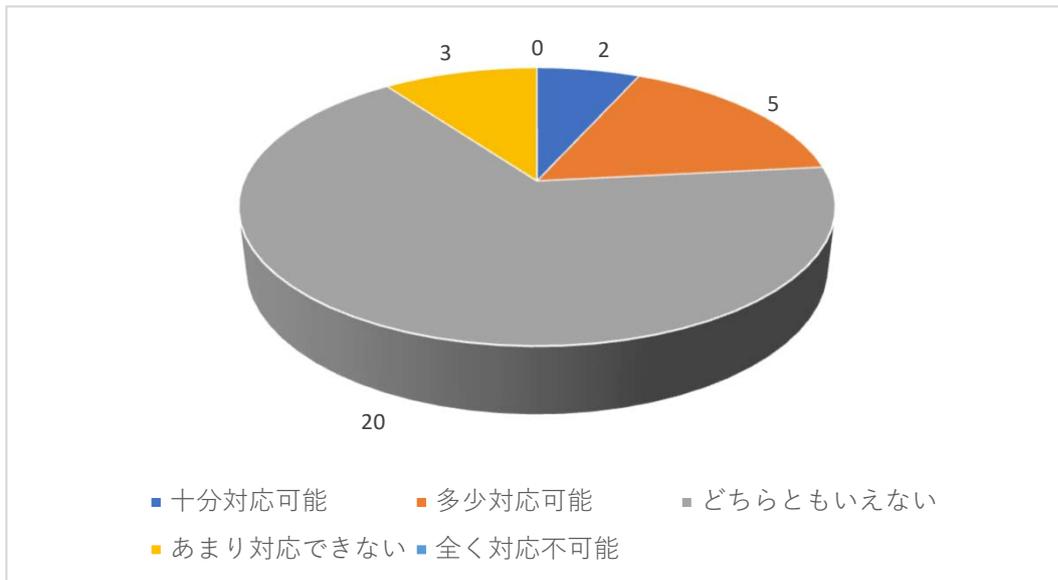
4. 自殺対策やメンタルヘルスケアに関する授業を、本学学生に対し行う必要があると思いますか？



5. 本学において、ゲートキーパーのような制度は必要だと思いますか？



6. 自殺のリスクのある学生を発見した場合、自分がゲートキーパーとして対応できそうですか？



7. その他、本講座を受講した感想、本学における自殺防止に関する対策等に関してのご意見等がありましたら、ご自由にご記入ください。

○P15、要注意学生が示す、シグナルに対して組織的に対応していくことが重要だと思うが、個人のコミュニケーション方法や問題が、変化、多様化してきているので、個人に直接的に相談、指導を行えるようなスタッフを増やすと良いのではないか。

○学生支援に必要な予算は、全学の予算増減にかかわらず、一定量を安定して確保されるべきだと感じる。

○とても勉強になりました。有難うございました。

説明概要

議題名 (説明者)	学生担任マニュアルの作成について (西川学長特別補佐)	
趣旨・目的	学生担任マニュアルの作成について報告する	
背景・ 経緯・ ポイント など	<p>茨城大学では、平成29年に「学生支援の基本方針」が策定され、教育目標等の達成のため学生支援の充実を図ることが定められている。これらの方針を達成するため、学生担任制度を制度化された学生支援を行う重要なものと位置づけ、担当学生の修学状況及び学生生活状況の早期把握による要ケア学生の発見とフォローアップを主な目的とし、学生担任マニュアルを作成する。</p> <p>【作成スケジュール】</p> <p>1. 平成31年度</p> <p>①学生担任マニュアル(案)をもとに、各学部で試行的運用を行う。</p> <p>②試行の結果を踏まえて、学生担任マニュアルを修正し、「中央学生委員会」、「副学長・学部長会議」、「教育研究評議会」で審議し作成する。</p> <p>2. 平成32年度</p> <p>運用を開始する。</p>	
委員会・ 会議等 における審 議等経過 や今後の 予定など	平成31年3月26日	中央学生委員会 審議
	平成31年3月27日	教育研究評議会 報告
その他		
担当	学務部 学生支援課	

2019 年度

茨城大学〇〇学部

学生担任マニュアル

(案)

目次

1. 学生担任制度の趣旨と目的	1
2. 学生担任が行うことについて	3
1) 全員面談の実施	
2) 「大学入門ゼミ」の実施	
3) 授業の出席状況確認	
4) 単位修得状況の確認	
5) 全学統一基準により抽出された成績不振学生等への対応	
6) 学生からの相談対応	
7) メールによる情報送信	
8) 研究室配属後について	
9) 連絡不能学生への対応について	
10) 学生担任による学生面談での基本姿勢	
3. 学科長等が行うことについて	8
1) 学生担任の推薦	
2) 学生担任名簿の各教員への配布	
3) 学生担任名簿の学生への周知	
4) 学生担任による全員面談実施状況の管理	
5) 問題発生時の対応	
6) 学生担任が欠員となった場合	
7) 学生からの担任変更希望への対応	
8) 学部教員等との情報共有	
4. 学生担任以外の教員が行うことについて	8
1) 体調不良等の学生への対応	
5. 学務部等が行うことについて	9
1) 単位修得情報の提供	
2) 1年次生受講科目の出席状況の提供	
3) 教務情報ポータルシステムでのデータ管理	
4) その他、学生への緊急対応	
6. 問題発生時や相談時の対応について	9
1) 呼び出しに応じない場合	
2) 学生からの突発的な相談について	
7. 過年学生等への対応	9
1) 過年学生等への対応	
8. 担任による学生相談の必要性	9

9. よくある質問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

10. 学生相談窓口一覧・・・・・・・・・・・・・・・・11

補足資料

1 : 茨城大学の3つの教育ポリシー

2-1 : 茨城大学の学士課程における成績不振等の学生への対応方針について

2-2 : 個別指導等実施記録

2-3 : 個別指導等実施報告書

3-1 : 面談情報整理シート

3-2 : 全員面談実施報告書

1. 学生担任制度の趣旨と目的

茨城大学では、平成 29 年に「学生支援の基本方針」が策定され、教育目標等の達成のため学生支援の充実を図ることが定められている。これら方針を達成するため、学生担任制度を制度化された学生支援を行う重要なものと位置づけ、担当学生の修学状況及び学生生活状況の早期把握による要ケア学生の発見とそのフォローアップを主な目的とし、運用する。

以下、本学の学生支援の基本方針を示す。

茨城大学学生支援の基本方針

(基本姿勢)

- ①茨城大学の教育目標及びディプロマ・ポリシーを実現するために学生支援が不可欠であることを共通理解として、学生の成長を支え、安全安心な大学生活を保障して、学生の誰もが茨城大学での学修を十分に行えることをめざす。
- ②そのために、障害学生、留学生など特別な支援を必要とする学生に配慮しつつ、学修相談体制の強化、学修環境・学生用施設の整備充実、生活・経済・就職支援等の包括的な学生支援の充実を図る。
- ③「学生支援の3階層モデル」に依り、「日常的な学生支援」、「制度化された学生支援」、「専門的學生支援」を充実させつつ、三階層間の連携に配慮する。
- ④教学支援を進めるパートナーとして、学生支援活動に学生自身が参加する機会を増やし、企画段階への学生参画の拡大を図る。

上記基本方針は、以下のような考えで策定されている。

戦後、我が国に SPS (Student Personnel Service) の概念がアメリカから導入された。この中では、入学前から卒業就職に至るまでの様々な状況に応じて学生を支えること、学生が心身の健康を保持増進できるようにすることなどを、大学の本質的役割とし、これらに全ての教職員が関与することなどが求められた。しかしながら、その後、これら取り組みは、社会情勢や予算等の側面により限定的にしか推進されない状況が続いた。その後、平成 12 年にいわゆる廣中レポートにより、「教員中心の大学」から「学生中心の大学」に転換すべきという理念が明確に打ち出され、「学生相談」が「大学教育の一環」として捉え直された。さらに平成 19 年には、いわゆる苦米地レポートにより、学生の課題や状況に応じて、多様な教職員が学生を支援する「学生支援の3階層モデル」による総合的な学生支援体制が出され、このモデルは今日多くの大学で採用されるようになった。

〈学生支援の3階層モデル〉（日本学生支援機構 2007）

[日常的學生支援（第1層）]

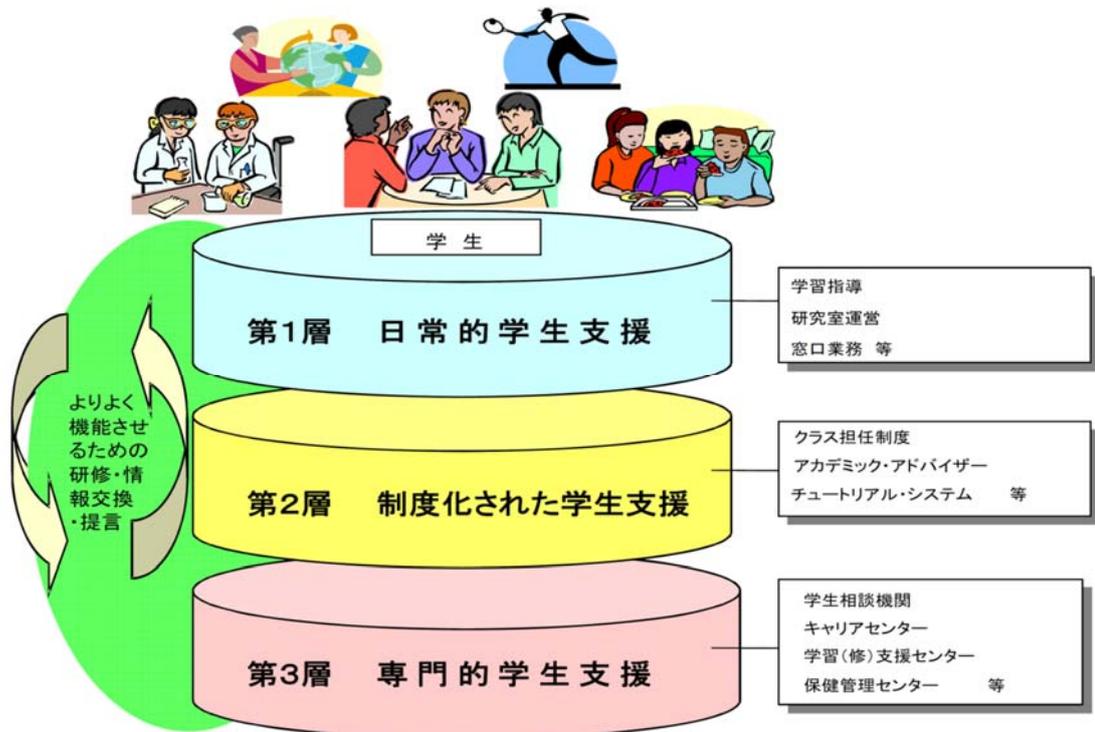
教職員は日常的に學生に接する中から、学習指導や研究室運営、窓口業務における助言等を通して、自然な形で學生の成長支援を行っている。また、學生同士の自発的な交流は適応上極めて重要であり、日常的學生支援に含むことができる。

[制度化された學生支援（第2層）]

次の階層では、制度化された學生支援として、「クラス担任制度」「アカデミック・アドバイザー」「チュートリアル・システム」「オフィス・アワー」「何でも相談窓口（員）」「就職相談」等の役割・機能を担った教職員による活動が挙げられる。また、學生の相互援助力を活かす「ピア・サポート」の試みも近年広まりつつある。

[専門的學生支援（第3層）]

2つの階層を越えてより困難な課題が生じた際に、「学生相談機関」「キャリアセンター」「学習（修）支援センター」「保健管理センター」等学内の専門的學生支援機関が支援を行う。問題の解決・改善の核となり、上記の2階層を支え、かつ学外機関と連携を行う際の拠点となる。なお、この学内の専門的學生支援機関は、すべての學生が必要に応じて利用可能な全学的な共通の基盤となる機関（以下「全学共通基盤」という。）として、教職員を配した組織であることが望まれる。



（日本学生支援機構 2007 大学における学生相談体制の充実方策について－「総合的な学生支援」と「専門的な学生相談」の「連携・協働」－）

2. 学生担任が行うことについて

茨城大学では、入学を希望する者に対して求める資質の「アドミッション・ポリシー」、卒業時までには伸ばし備える力の「ディプロマ・ポリシー」、その力をつけるための大学での学修や学生生活全般等に関する「教育及び学修に関するポリシー」の3つのポリシーを掲げ、この指針に沿って入学してきた者に対して卒業するまでの学修と成長を学生生活全般から支えることを保障している（エンロールメント・マネジメント、補足資料1）。そして、大学での学修と大学生活を支える主軸として学生担任制度を置いている。平成30年度より複数担任制度が整備され、各学部の状況に合わせた学生担任制度が運用されている。これら複数の学生担任が、必要に応じて引き継ぎ等を行い、学内外機関等と連携しながら、入学から卒業まで継続して学生を支援していく。

1) 全員面談の実施

学生担任による学生面談を、1年次生全員を前期、後期に1回ずつ年計2回、2年次生以降は年1回以上実施し、疑問や質問等に対応するとともに、成績不振や健康状態が不良な学生を把握し、適切な対応を行う。面談内容は「面談情報整理シート」（補足資料3-1）に簡潔に記録する。「面談情報整理シート」は担当の学生担任が保管し、「全員面談実施報告書」（補足資料3-2）を学科長等へ提出する。

2) 「大学入門ゼミ」の実施

学生担任は大学入門ゼミを担当し、茨城大学生として必要な学修、研究、学生生活等の実践法を教授するとともに、今後、担当学生が相談しやすい雰囲気作りを行う。

3) 授業の出席状況確認

1年次生においては、学務部より提供される基盤科目の出席状況を確認し、必要に応じて学生面談を実施する。また、2年次生以降については、以下5)にあるとおり「茨城大学の学士課程における成績不振等学生への対応方針について」（補足資料2-1）に基づき対応するが、明らかにメンタルヘルスを含む体調不良により出席状況が不良な学生に対しては、必要に応じて面談対応等を行う。

4) 単位修得状況の確認

各学部等で学期末ごとの単位修得基準を設定する。教務委員が単位修得基準をもとに成績を確認し、問題があれば学生担任に報告する。教務委員より報告を受けた学生担任は、学務グループ係等で改めて当該学生の成績の詳細を確認し、問題ありと判断された場合、当該学生と面談を行う。

5) 全学統一基準により抽出された成績不振学生等への対応

「茨城大学の学士課程における成績不振等学生への対応方針について」に基づき面談を行い、「個別指導等実施記録」（補足資料2-2）に記録し、「個別指導等実施報告書」（補足資料2-3）を学部長等へ提出する。

6) 学生からの相談対応

学生担任は、学生から相談要望があった場合は、できる限り時間を作り対応する。その際には、6.「問題発生時や相談時の対応について」をよく心得て対応する。学生から各種の学修上、生活上の悩みや相談が寄せられた場合、それらの原因が学生本人の抱える身体的・精神的な病気や障害に由来するものと推察される場合、必要に応じて、学生なんでも相談室等への相談を促すか、学生担任がなんでも相談室等に相談するなどして対応する。また、学生から合理的配慮の申し出があった場合、各学部障害学生修学支援員もしくはバリアフリー推進室へ相談し対応する。

7) メールによる情報送信

学生へのメールは、大学指定のメール（学籍番号@vc.ibaraki.ac.jp.）を使用する。

8) 研究室配属後について

研究室配属前後で担任業務の担当が変わる場合、教員間の引き継ぎはもとより、学生への周知をしっかりと行き、業務移行による学生支援の不備がないようにする。

9) 連絡不能学生への対応について

学生担任による面談等に関わる呼び出しに応じない学生については、以下の学生への連絡対応フロー図に基づき対応する。この結果、保証人等含め呼び出しにも応じないなど対応が困難な場合、保健管理センター、バリアフリー推進室等と相談の上、状況に応じて学生宅へ戸別訪問をする。

10) 学生担任による学生面談での基本姿勢

学生が主体的に問題を解決し、それによって学生が精神的、人間的に成長することが望まれる。これを行うためには、学生に寄り添い、視野を広げ、問題状況を整理し、情緒的に学生を支えながら解決方法を学生と一緒に模索していくことが大切である。重要なことは、学生のどのような相談でも、相談に当たった担任がひとりで抱えて解決しなければならないと考えないことである。問題を早期に発見して必要に応じて各種相談機関につなぐことが重要である。これらを踏まえ以下の具体的な姿勢に留意し対応する。

・問題を学生と一緒によく把握する

十分に話を聴ける時間と場所を設定する。誰かが自分のために時間を割いてじっくり話を聞いてくれた体験、自分を受け入れてくれた体験は、その学生の不安を軽減し、その問題に前向きに取り組もうという姿勢を促す可能性がある。

・問題を明確化する

性急な問題に遭遇している学生は、混乱し、その状況を正確に客観的に捉えることができなくなっていることが少なくない。そこで、問題と状況を学生担任とともにもう一度ながめ、整理し、少し多面的に見ることができると、糸口が見つかる場合もある。学生が混乱している場合には、こちらが理解していることをなるべく時系列にそって系統立てて本人に伝えることが有効な場合が多い。

・情報を適切に伝える

学生の持ち込んでくる相談には、正確な情報を学生が有していないために混乱が生じていたり、あいまいな情報のために不安が大きくなっていることがあり、こちらが一度伝えた情報も正確に把握していない場合がある。そういった場合にも「それはもう分かっているはずであり、分からない場合は自分から聞きに来ない学生が悪いのだ」と考えるのではなく、学生の混乱している状況を踏まえ、適切に学生に届くような伝達を試みることが大切である。

- ・ 具体的、現実的にできる解決方法を伝える

問題の把握がある程度できたら、支援・助言をする。この場合には、なるべく現実的で、具体的な解決方法を助言する。そして、可能であれば唯一の解決方法ではなく、いくつかの解決手段を伝え、学生がその中から自分なりの解決策を選択していく方が望ましい。教員に自分の抱えている問題を解決してもらったのではなく、教員に相談して自分で解決法を見つけたと思える方が学生の人間的な成長につながることが多い。

- ・ 関係機関、利用できる資源につなぐ

相談内容によっては、なんでも相談室等、関係機関と連携を図ることが有効な場合がある。その場合、学生にただ紹介先を伝えるのではなく、しっかりとつながるように、学生の目の前で相手に電話をしてアポイントをとったり、仲介して直接引き合わせたりすることが必要な場合がある。学生担任が一人で全ての問題を解決・サポートしようとするのは難しいケースが多いので、周りとの連携が大切である。

- ・ 守秘義務について

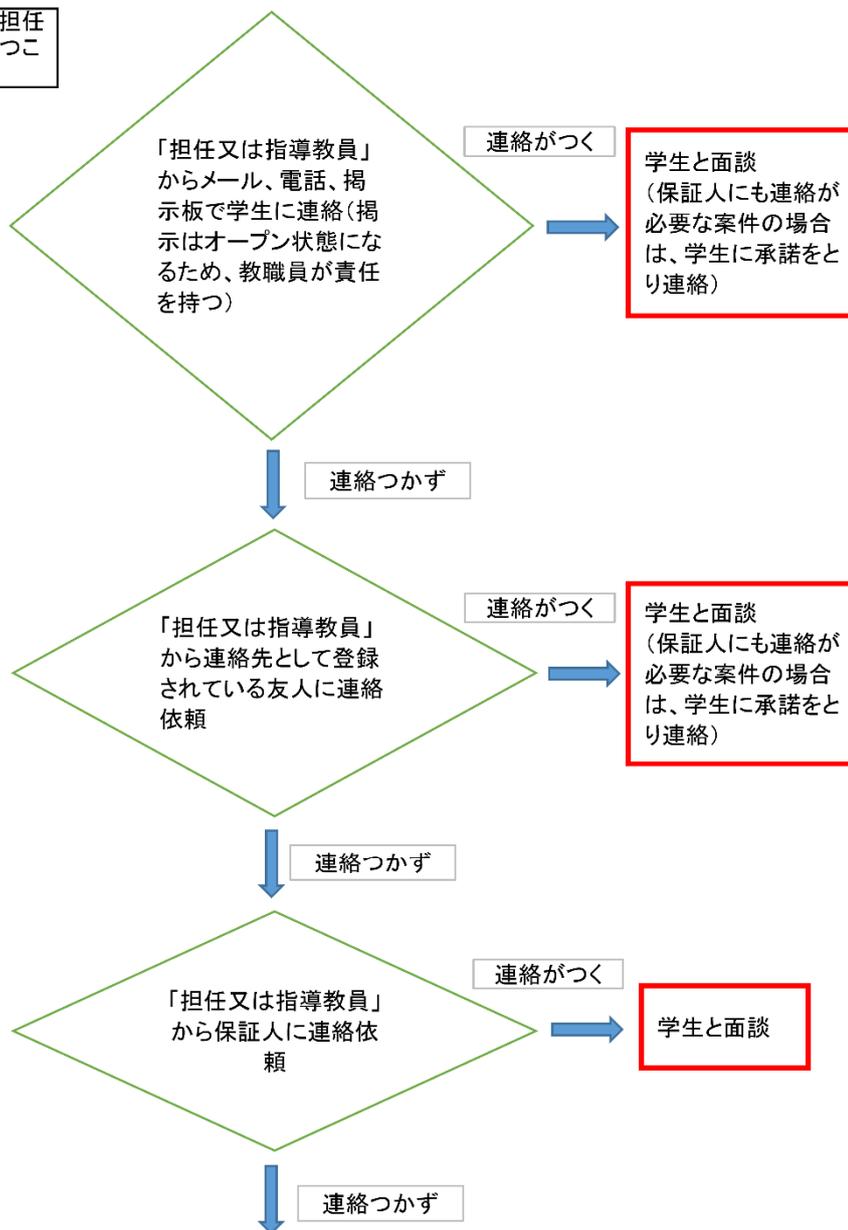
学生相談において知りえた学生のプライバシーを、十分に尊重する必要がある。

プライバシーが尊重されることで、担任と学生との間に安心感や信頼感が生まれ、効果的な相談関係が構築される効果も期待できる。もし、相談の内容によって家族や関係者に伝えなければならない場合、本人に伝えずに家族と連絡をとるのではなく、その必要性を本人に伝え、できるだけ了解をとることが望ましい。

パターン①

学生への連絡対応フロー図
【履修確認や研究室からの連絡等通常行われる連絡の場合】

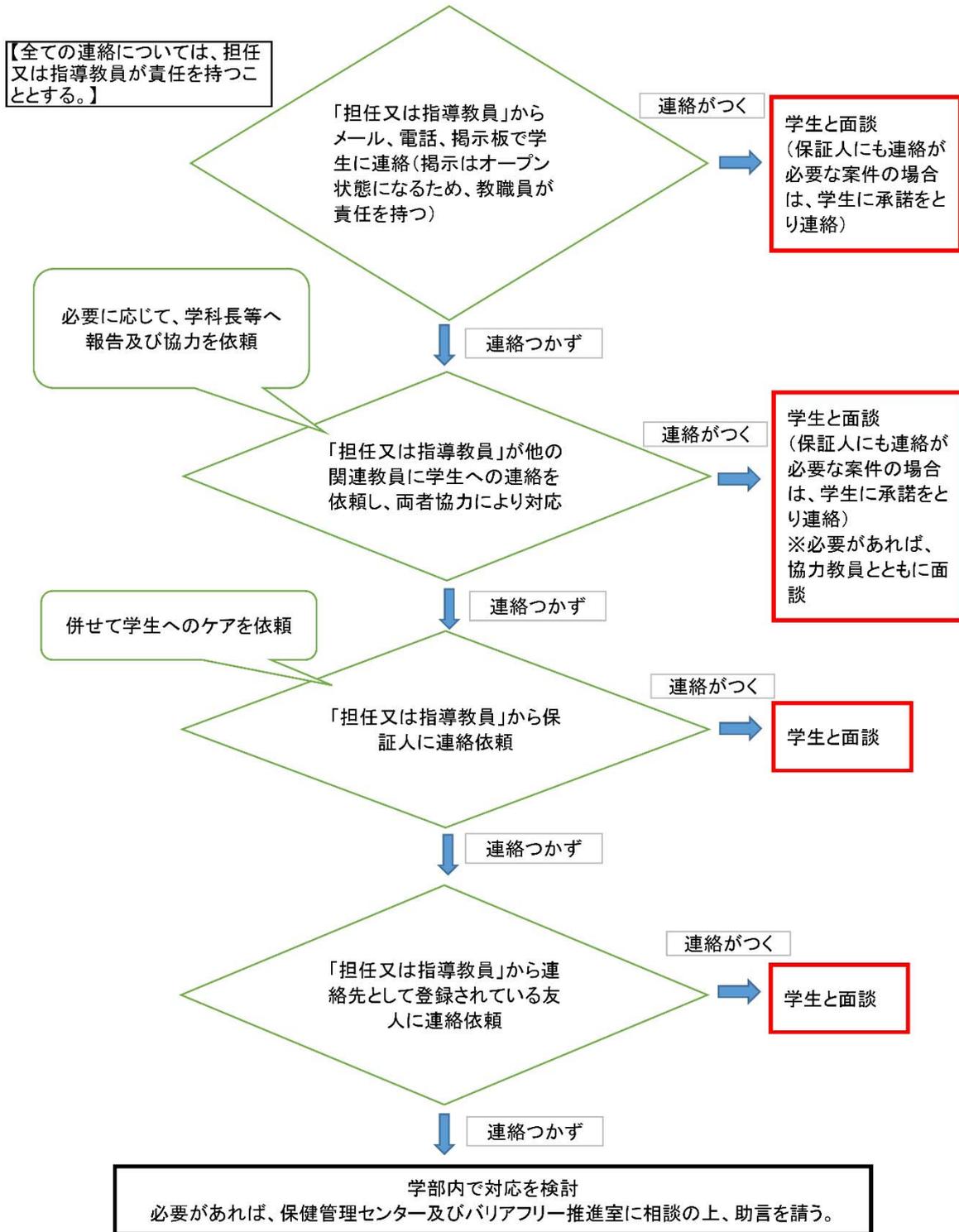
【全ての連絡については、担任又は指導教員が責任を持つこととする。】



学部内で連絡不能学生を把握し、必要な対応を行う。
必要があれば、保健管理センター及びバリアフリー推進室に相談の上、助言を請う。

パターン②

学生への連絡対応フロー図
【連絡困難又は特別な配慮を必要とする学生等特に注意が必要となる場合】



3. 学科長等が行うことについて

1) 学生担任の推薦

- ・学科長等は各部局が定める規定に従い、学生担任の決定（推薦）を行う。
- ・教員の所属コース等や年齢が偏らないようにする等、バランスよい配置を心がける。
- ・学科会議等での各教員からの意見や提案も取り入れて推薦者を決定する。

2) 学生担任名簿の各教員への配布

各教員へ配布し、学生担任の役割および各教員が行うことについて、学生担任マニュアルを参考に説明する。

3) 学生担任名簿の学生への周知

新入生ガイダンス時等に学生担任名簿を学生へ配布し、各学生担任の紹介をする。

4) 学生担任による全員面談実施状況の管理

前記 2. 1) の全員面談の実施状況を管理し、学生担任より提出される「全員面談実施報告書」に基づき、必要な対応を検討する。

5) 問題発生時の対応

学生担任と学生との話し合いで問題が解決しない場合や、学科および学部で対応したほうがよいと思われる事例等については、学生の同意を得た上で、学科長等が学生に対応する。また、緊急事態等の場合には、必要に応じて一時的に学生担任を増員して対応する。

6) 学生担任が欠員となった場合

学生担任が退職等で欠員となった場合、学科長等は速やかに学生担任を補充するとともに、対象学生等に周知する。

7) 学生からの学生担任変更希望への対応

学生と適切に話し合い等を行い、必要に応じて学生担任の変更等を行う。

8) 学部教員等との情報共有

出席状況が著しく悪い、自傷他害の恐れがあるなどの学生がいる場合、必要に応じて学生担任等が学生から情報共有の許可をとった上で、学科長等は状況に応じて学部教員等と情報を共有し対応する。

4. 学生担任以外の各教員が行うことについて

1) 体調不良等の学生への対応

- ・メンタルヘルス等を含め体調不良が顕著な学生については、必要に応じて保健管理センターやなんでも相談室等に連絡するか、学生担任に連絡するなどの対応を行う。
- ・必要に応じて学科長等と連携するか、各学部内の会議等で情報共有等を行うなどして、当該学生の情報を共有する。
- ・長期間欠席が続くなどの場合で授業担当教員が学生に連絡できない場合は、学生担任に連絡して対応を依頼する。

- ・必要に応じて問題発生後の具体的対応法について検討し、決まった方策を行う。

5. 学務部等が行うことについて

- 1) 単位修得情報等の提供
- 2) 1年次生受講科目の出席状況の提供
- 3) 教務情報ポータルシステムでのデータ管理
- 4) その他、学生への緊急対応

6. 問題発生時や相談時の対応について

- 1) 呼び出しに応じない場合

上記2. 9) 連絡不能学生への対応について、に基づき対応する。

- 2) 学生からの突発的な相談について

学生からの相談に対しては真摯に対応する。メール等で相談日時を指定して、それを守り面談等を実施する。明らかに不調をきたしているように見える学生は、保健管理センターやなんでも相談室等につなぐ。また、面談をしても状況が改善しない等の場合は、精神的な不調に陥っている可能性もあるので、対応について学科内等で検討し、必要に応じてなんでも相談室等と連携する。その際、学生担任は関係機関と協働するなどし、引き続き出席状況等に注意を払う。面談対応した学生については、学期末、学期始まりなどの節目に様子を確認するよう心がける。

7. その他

- 1) 過年度学生等への対応

基本的に学生担任は継続して対応する（学生担任の退職などやむを得ない理由を除く）。学生担任がついておらず、かつ卒論指導等で研究室に配属されていない学生及び過年度生の取扱いについては、以下を参考に学科長等が判断し適切に対応する。

<対応策の例>

- ・学科長等が学生担任となる
- ・過年度生だけを対象とした学生担任を別枠で設ける
- ・〇年次生の学生担任が担任を兼ねる

8. 学生担任による学生相談の必要性

大学生は、以下のような理由から教員によるサポートが必要な年代と考えられている。

① 生活環境の変化

大学生になると、一人暮らしを始める学生も多くなり、これまでは、朝は家族に起こしてもらい、食事や洗濯もすべてやってもらっていた学生が、すべて自分でこなさなくてはいけなくなり、学修と日常生活のバランスをうまくとれない、生活リズム

ムが乱れてしまうといった生活面での問題を抱える学生も多い。また、地元を離れて本学にやってきた学生は、見知らぬ土地、これまでとは違う気候、風土に慣れるまでに時間のかかることがある。

② 学修環境の変化

大学は、それまでの学校とは違い学生自らが履修を選択し、登録しなければならず、授業が行われる教室も毎回違い、情報を伝えてくれるホームルームもないことが多い。その他、座席が指定されていないこと、評価方法が多様であること、自分の所属があいまいになることなど、学生の戸惑いを誘引する要素が多くある。その際、自分から教員にアプローチしたり、友達を作って情報を得る力がないと、孤立する可能性がある。

③ アイデンティティ確立の時期

大学時代は、それまでに獲得した自分を見直し、自分がどんな人間なのかを自問自答する時期といわれている。新しい自分を確立するためには自分の習慣などを変化させる必要がある場合があり、これは大きな不安を伴う作業であり、学生によっては大きな混乱が起きたり、なかなかこの状況から抜け出せない学生もいる。

④ 人生における大きな決断をしなければいけない時期

大学時代は、アイデンティティの確立に加え、自分の専門性の決定（研究テーマや卒業論文等）や職業選択という人生における大きな課題を決定しなければいけない時期であることが多い。

⑤ 精神疾患の好発期

一般的な大学生の年代は、統合失調症をはじめとしたさまざまな精神疾患が発症しやすい時期といわれている。精神疾患のある学生は、周囲との関係が希薄になり、孤立しがちな傾向がある。そうなる、なかなか周囲に気づかれず、治療開始が遅れてしまうことが多い。

以上のように、大学生の年代は様々な要因から不安定で、揺れ動きやすい時期と言える。しかし、指導が適切に行われるとそこから立ち直り、充実した学生生活を送れる学生も多く存在する。教員は、学生の主体的な選択や決断を尊重しつつも、必要な時には手を差し伸べたり、大人や職業人のモデルとして学生とかがかわることが重要な場合がある。そのためには、普段から学生の状況を把握し、支援が必要な状況かどうか見極めることが大切と考えられる。

9. よくある質問

Q1: どのように学生と面談をすればよいのですか？学生に何を聞けばいいのですか？

A1: 全員面談では「面談情報整理シート」、成績不振学生面談では「個別指導等実施記録」に基づき面談を実施し、その他、学生の疑問点や困っている点を尋ね、具体的な情

報提供ができる場合は情報提供をしてください。対応が難しいと感じた場合は、各学部担当部署もしくはなんでも相談室等に相談してください。

Q2: 対応が困難な事例等について、学生担任が相談する場所が、学科長等、なんでも相談室、保健管理センターなど複数あり分かりづらい。どこに相談すればよいか。

A2: 原則的には、まず所属部局等で相談の上、対応可能なものについては対応してください。学部での対応が困難なもの等、判断が難しい場合は、なんでも相談室か学生支援課にご連絡ください。なんでも相談室等が適切な部局等（保健管理センター、バリアフリー推進室等）へつなぐことも含め、その後の適切な対応等について助言します。

Q3: 学生宅を訪問しなければいけない状況になったときは、1人で行かなければなりませんか？

A3: 所属学部、各学部学務グループ等と相談してください。訪問が必要な場合は、原則2名以上で訪問するようにしてください。

10. 学生相談窓口一覧

◎ 保健管理センター

水戸 029-228-8082 日立 0294-38-5019 阿見 029-888-8528

◎ なんでも相談室

水戸 029-228-8595 日立 0294-38-5232 阿見 029-888-8691

◎ バリアフリー推進室

水戸 029-228-8499 日立 0294-38-5232 阿見 029-888-8691

◎ 学務部 学務課 共通教育グループ 029-228-8415

◎ 学務部 学生支援課 029-228-8060

◎ 人文社会科学部学務グループ 029-228-8106

◎ 教育学部学務グループ 029-228-8207

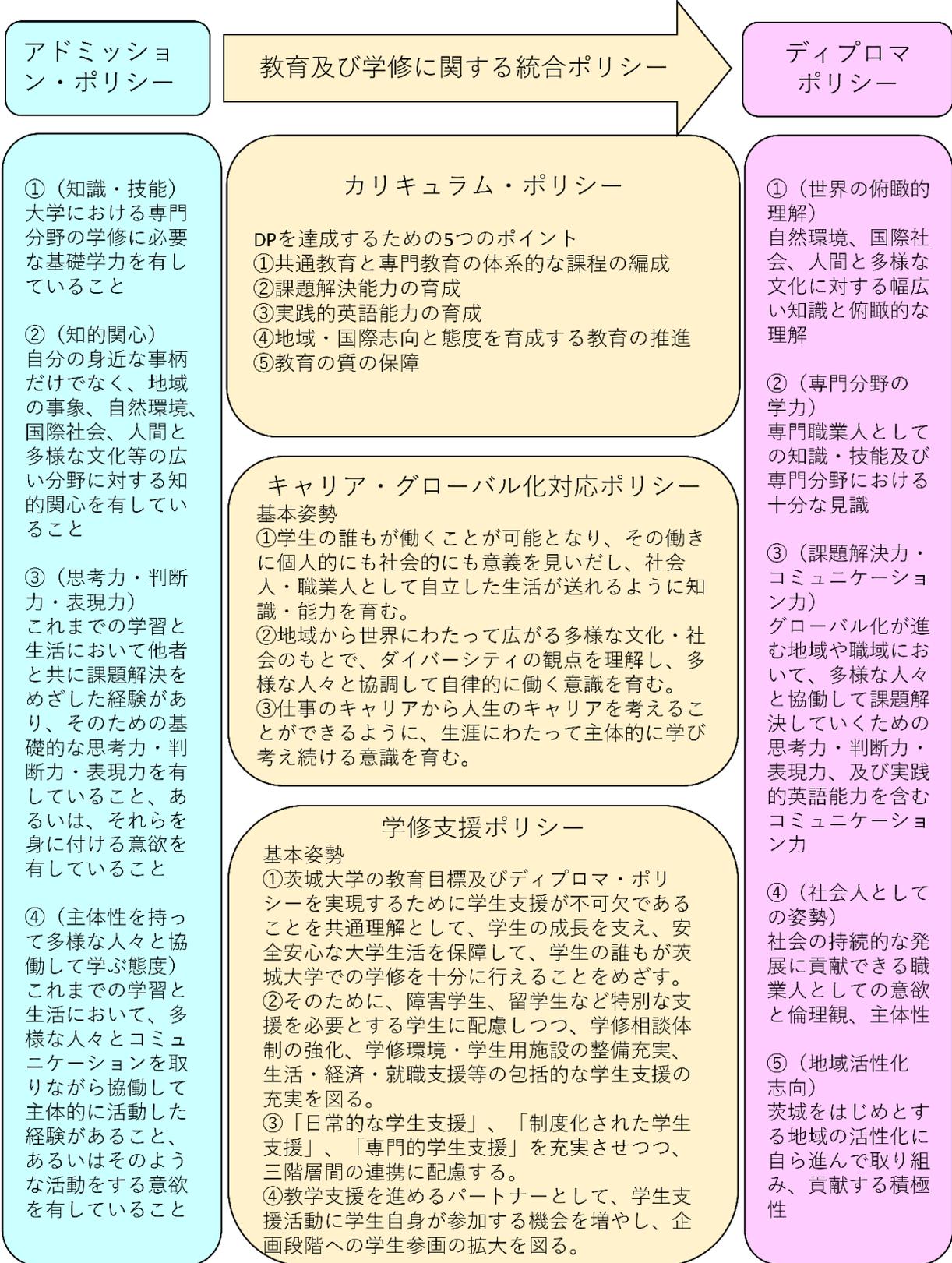
◎ 理学部学務グループ 029-228-8518

◎ 工学部学務グループ 0294-38-5011

◎ 農学部学務グループ 029-888-8519

<補足資料1>

茨城大学の3つの教育ポリシー（概要版）



茨城大学の学士課程における成績不振等の学生への対応方針について

(平成 28 年 2 月 19 日学長決定)

改正 平成 28 年 8 月 17 日規則第 118 号, 平成 29 年 3 月 21 日学長決定

平成 30 年 9 月 1 日学長決定

第 1 趣旨

この方針は、茨城大学が組織的に学士課程における学生の修学状況を把握し、所定の修業年限での卒業を担保するとともに、学生の学びへの意欲を喚起するための教育内容及び教育方法等の改善に取り組むため、成績不振等の学生に対応するにあたり、必要な事項を定める。

第 2 対象学生の要件

- 1 学期毎に次の各号のいずれかの要件に該当する学生(学士課程に在籍している者に限る。以下同じ。)を第 3 に規定する個別指導等の対象学生(以下「対象学生」という。)とする。ただし、休学者は除く。
 - (1) 直前の学期 GPA 算出日における累積修得単位数が、在学学期数に 15 単位を乗じて算出される単位数未満の学生
 - (2) 直前の学期 GPA 算出日における通算 GPA が 1.20 以下の学生
 - (3) 直前の学期 GPA が 1.20 以下の学生
 - (4) 修業年限を超えている学生
 - (5) 前各号に掲げるもののほか、各学部が別に定める要件に該当する学生
- 2 前項第 5 号に規定する要件を定めた学部は、第 4 に規定する報告と合わせて、当該要件を副学長(教育統括)に報告する。

第 3 個別指導等

- 1 各学部は、対象学生に対して、学年始(当該年度入学者(3 年次編入学生を含む。))は、後学期)に面談を行う。
- 2 前項に規定する面談を対象学生と行うことができない場合は、身元保証人との面談又は当該対象学生若しくは身元保証人との電話、電子メールその他これに準ずる方法に代えることができる。
- 3 第 1 項の規定にかかわらず、対象学生となった理由が留学、編入学、internship off-campus program、教育課程編成上の理由等により、当該学部がやむを得ないものと認める場合は面談を要しない。
- 4 各学部は、第 1 項の面談結果を個別指導等実施記録(別紙様式第 1 号)に記録するものとする。
- 5 各学部は、対象学生に対して、学生の修学状況を把握し、個別に履修指導(履修計画の立案を含む)、学修相談及び補習等(以下「個別指導等」という。)の必要な措置を講じ、計画

的な修学及び修学状況の改善に努める。

- 6 各学部は、第1項及び第5項に規定する対応を継続的に実施するため、学部内における実施体制を整えるとともに、必要に応じて全学教育機構、保健管理センター、他学部等と連携協力を図る。
- 7 各学部は、必要に応じて、対象学生に対し、後学期始にも面談を行うものとする。

第4 副学長(教育統括)への報告

- 1 学部長は、第3に規定する個別指導等の結果を個別指導等実施報告書(別紙様式第2号)にとりまとめ、学年始実施分は5月末日、後学期実施分は11月末日までに副学長(教育統括)に報告する。
- 2 副学長(教育統括)は、各学部からの報告を教育改革推進委員会及び中央学生委員会に提示して情報共有を図るとともに、必要に応じて、教育及び学生支援体制等の整備充実を協議する。

第5 庶務

- 1 第2に規定する要件の可否を判定するための情報は、学務部学務課から各学部毎に学期毎に提供する。
- 2 各学部は、学務課から提供された情報及び個別指導等に関する情報の取扱いに注意し適切に管理する。

第6 改正

この方針の改正は、教育改革推進委員会及び中央学生委員会の審議を経て、学長が行う。

第7 雑則

この方針に定めるもののほか、対象学生への対応に係る実施体制等に関し必要な事項は、各学部が別に定める。

附 則

この方針は、平成28年4月1日から実施する。

附 則(平成28年8月17日規則第118号)

この規則は、平成28年8月17日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則(平成29年3月21日学長決定)

この方針は、平成29年4月1日から実施する。

附 則(平成30年9月1日学長決定)

この方針は、平成30年9月1日から実施する。

<補足資料 2-2>

(年度 学期 (対応を行った時期))

個別指導等実施記録

(学部)

対象学生	学生番号		学生氏名	
該当する要件(※ 数値等を記入する。)	①累積修得単位数		②通算 GPA	
	③直前学期GPA		④修業年限超過	
	⑤その他			
面談等担当者	氏名： <input type="checkbox"/> 担任・指導教員 <input type="checkbox"/> その他 ()			
面談の要否 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 否 [<input type="checkbox"/> 留学 <input type="checkbox"/> 編入学 <input type="checkbox"/> iOP 活動 <input type="checkbox"/> 教育課程編成上の理由 <input type="checkbox"/> その他 ()]				

面談実施記録	
成績不振等の主たる理由 (複数選択可) <input type="checkbox"/> 学修方法に問題あり <input type="checkbox"/> 学修量不足 <input type="checkbox"/> 基礎学力不足 <input type="checkbox"/> 学修意欲減退 <input type="checkbox"/> 進路再考 <input type="checkbox"/> 疾病 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 連絡不能等により不明 (下に身元保証人等への連絡状況等を記載)	
面談等の実施年月日： 年 月 日 () 内容 (成績不振の具体的内容、指導内容等を記載)：	
(※面談等を複数回実施した場合は、実施年月日を分けて記載する。)	
特記事項	

<補足資料 2-3>

個別指導等実施報告書（_____学期）

（_____学部）

1. 面談等の担当者・期間※

※「担当者」は、学生担任や指導教員などの役職を記入する。

「期間」は、連絡を取れる対象学生等について面談等にかかった期間を記入する。

- ・ 担当者
- ・ 期間

2. 個別指導等の対象学生となる要件

- 全学の要件と同じ
- 全学の要件に加え、学部独自の要件を追加（具体的に記入）

3. 上記要件による対象学生数及び対象学生の状況等

対象学生数	人数	左記の内、方針第3第2項により面談不要と認めた者	対象学生の状況等（複合要因はそれぞれに算入）						連絡不能	
			学修方法に問題あり	学修量不足※	基礎学力不足	意欲減退		疾病		その他
						学修意欲減退	進路再考			
1年次										
2年次										
3年次										
4年次										
過年次										
合計										

※「学修意欲減退」「疾病」等の理由はなく、単に学修量が不足すると思われる者の人数を記入する。

4. その他（特記事項・課題・提案等）

<補足資料 3-1>

学生担任 面談情報整理シート

基礎情報	作成者	担任 () 副担任 () その他 ()
	面談日	年 月 日
	対象学生	
	学部	
	学科	
	学年	
	氏名	
	学籍番号	
学修	単位の取得状況	単位 (内必修 単位)
	単位が不足している理由	
	難しさを感じ始めた時期	
	難しさを感じたきっかけ	
	難しいと感じる教科	
体調把握	現在の体調 (直近2週間)	
	睡眠時間	
	疲労感	
社会的資源	交流している友人の有無	
	サークル活動	
	アルバイト	
	その他活動	
	実家か一人暮らしか	
	生活の乱れの有無	
悩み・質問	悩み	
	学生からの質問	
支援計画	面談頻度	次回 年 月 日 ヶ月に1回
	今回の判断と今後の対応	

